「市の中心拠点」と「にぎわいゾーン」における
今後求められる都市機能や都市空間の在り方研究

近畿大学建築学部

松岡 聡　宮部 浩幸　髙岡 伸一　堀口 徹

まえがき

東部大阪中枢エリアが 2050 年の社会を見据えた東西都市軸の強化を担うエリアへとして発展するために、市の中心拠点および賑わいゾーンにそれぞれ位置づけられる荒本・長田エリア、布施〜河内小阪〜瓜生堂エリアを近畿大学の 4 研究室が合同で調査、分析、その後のケーススタディを行った。これらのエリアが今後どのような役割を担い、都市機能、都市空間を備えるべきかについて、コンセプトや分野別の戦略的取り組みのイメージを明らかにすることを目的として一年間にわたり現地調査、ヒアリングを実施してきた。特に、荒本・長田エリアは夢洲、大阪市都心部、森ノ宮、けいはんな学研都市の東西都市軸における役割を、また布施駅から瓜生堂駅周辺までのエリアは各駅の地域魅力を高めるまちづくりの方向性を示すことを重点的に調査研究を実施した。

近畿大学建築学部は東大阪市を研究のフィールドとして取り組み、これまでいくつかのプロジェクトを共同して実施してきた。東大阪キャンパスは本研究の対象エリアに近接し、重要な役割を担うべき教員、学生にとってなじみ深いエリアで、本研究においての調査の実施、提案の作成に関わることは意義のある経験となった。各エリアで収集した調査データやヒアリングの内容を市と共有しながら、地元との協議を通してより詳細な調整、プレゼンテーションを実施することできた。今度はより深度を増した量的調査の実施とともに、関係者を巻きこむ魅力ある提案づくりのための質的調査を進める必要がある。

目次

1 基礎調査

1-1 立地適正化計画 4

1-2 プレイスメイキング 19

1-3 社会実験事例 24

1-4 卸売団地事例 37

2 「市の中心拠点」への提案

2-1 長田 54

2-2 荒本 66

3 「にぎわいゾーン」への提案

3-1 布施 84

3-2 河内小阪 99

3-3 瓜生堂 110

まとめ 115

活動記録 / 参加学生 117

1　基礎調査

1-1　立地適正化計画

1-2　プレイスメイキング事例

1-3　社会実験事例

1-4　卸売団地事例

1-1　立地適正化計画

人口の急激な減少と高齢化に伴い、医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるという「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の都市構造をめざす都市再生特別措置法が 2002 年に策定された。644 の自治体が立地適正化計画について具体的に取り組んでおり、そのうち 470 の都市が計画を作成し公表している。各市町村は都市計画区域を定め、中心を都市機能誘導区域、その周りを居住誘導区域、またその周りを市街化区域という三層構造を形成する。

都市機能の立地を誘導しコンパクトシティを目指すマスタープランを市町村が作成している。施行後、20 年経過して市町村は計画変更をしながらそれぞれのまちの現状から、人口減少のすすむ未来のまちを見据え、計画の遂行に取り組んでいる。作成された立地適正計画の核を担う都市機能誘導区域の立地と、各自治体内における誘導区域の数や散らばり方の類型化を行い、都市をリデザインする「計画」の特徴を、特にコンパクトシティが急務である地方都市に着目して公共機関（駅）のみではなく、徒歩圏を前提としない幹線道路を活用せざるを得ない現状を浮き彫りにする。

担当：松岡 聡

［リサーチ１］立地適正化計画とは

［リサーチ２］東大阪近郊の市町村の立地適正化計画

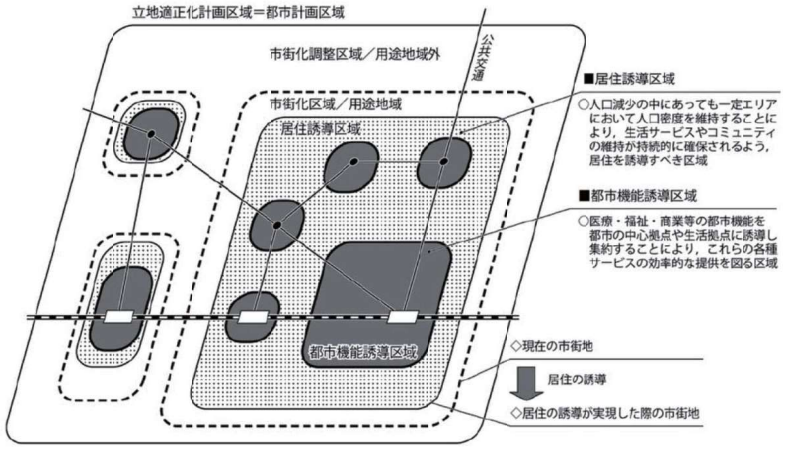
［リサーチ３］東大阪市と他市町村の比較

［リサーチ４］立地適正化計画のアーカイブ

［リサーチ５］道路に着目したアーカイブ

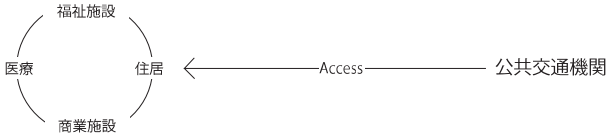
［リサーチ１］立地適正化計画とは

持続可能な都市構造への再構築を目指し、人口減少社会に対応したコンパクトシティを実現するためのマスタープラン。近年の人口減少と高齢化等を背景に将来の都市構造について「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方で進めていくことが重要であるとして平成 26 年 8 月に「都市再生特別措置法」か改正され「立地適正化計画制度」が創設された。



●コンパクト（シティ）・プラス・ネットワーク

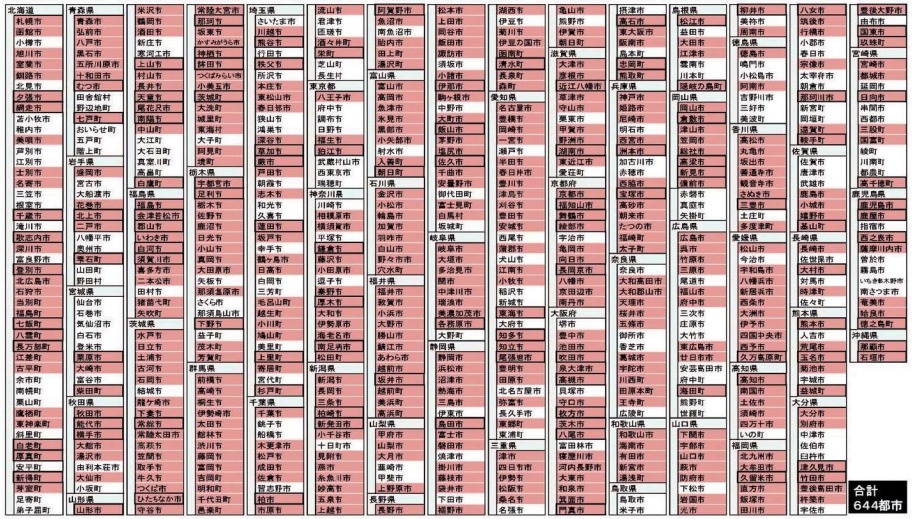
人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めること。



●全国の立地適正化計画の作成状況

644 都市が立地適正化計画について具体的な取組を行っている。（令和 4 年 12 月 31 日時点）
このうち 470 都市が計画を作成・公表。

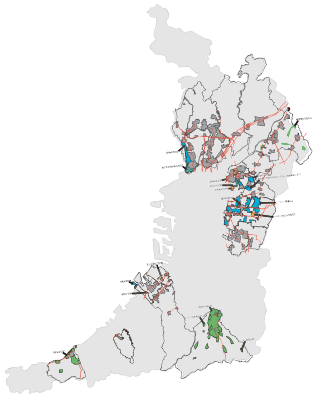
※令和４年１２月３１日までに立地適正化計画を作成・公表の都市（オレンジマーカー）、防災指針を作成・公表の都市（**青太枠**：１１０都市）
都市機能誘導区域、居住誘導区域ともに設定した市町村（**赤字**：４６７都市）、都市機能誘導区域のみ設定した市町村（**青字**：３都市）



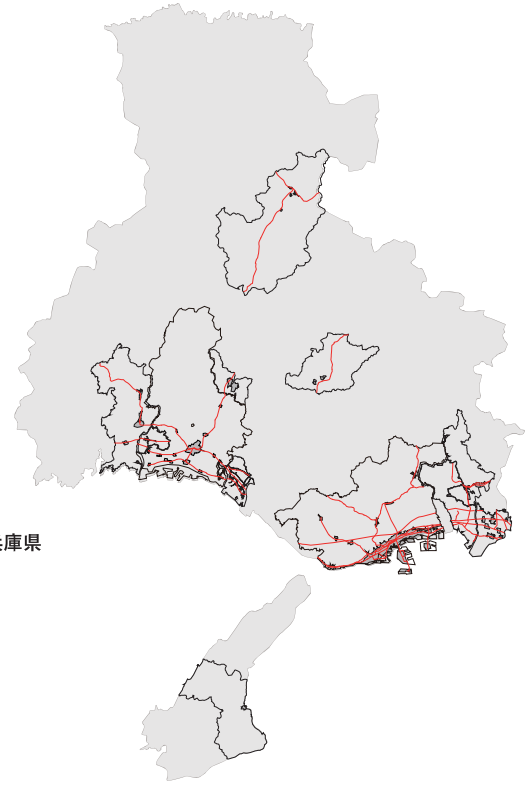
● 6 都府県の特記事項の比較



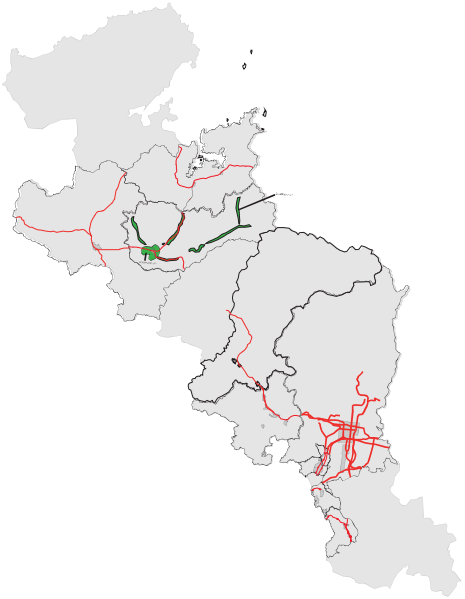
・大阪府



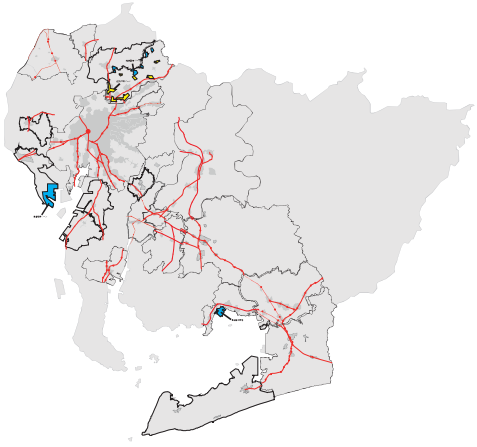
・兵庫県



・京都府



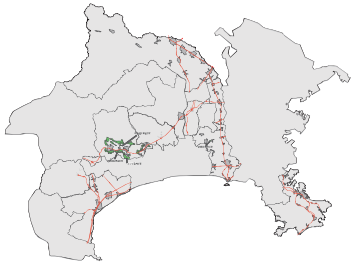
・大阪府



・東京都



・神奈川県



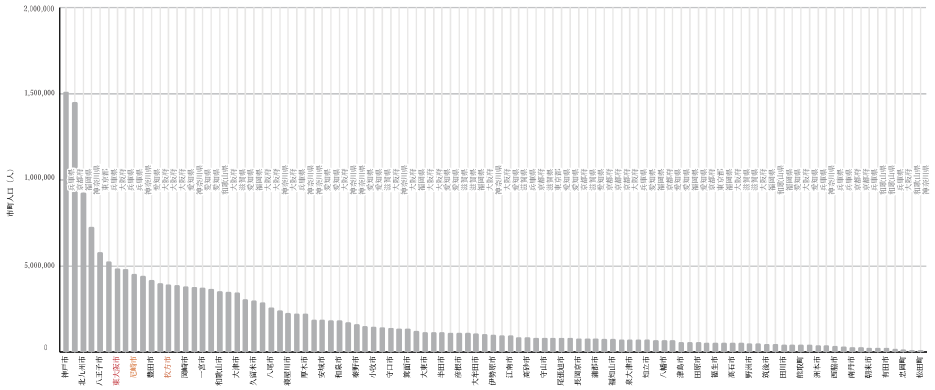
S=1/1800000

●各市町村の比較と東大阪市の位置づけ

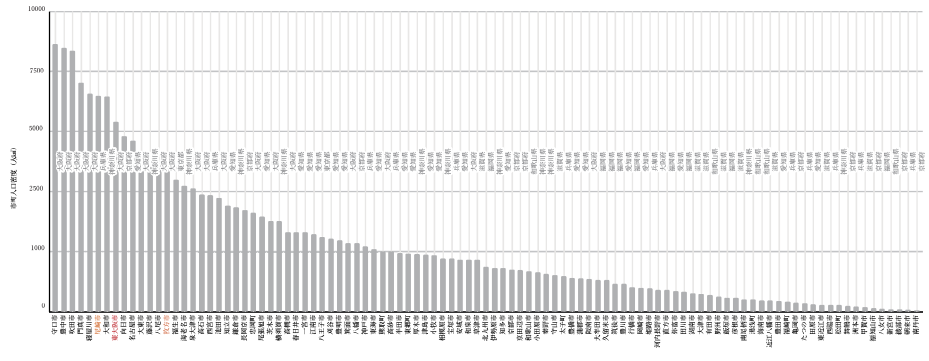
・各市町村の人口・人口密度を元に分析

東大阪市は人口が多く、人口密度も高い。

各市町村の人口



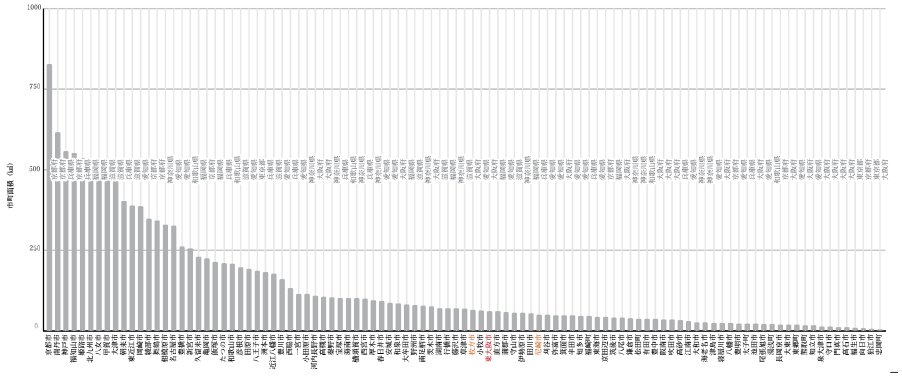
各市町村の人口密度



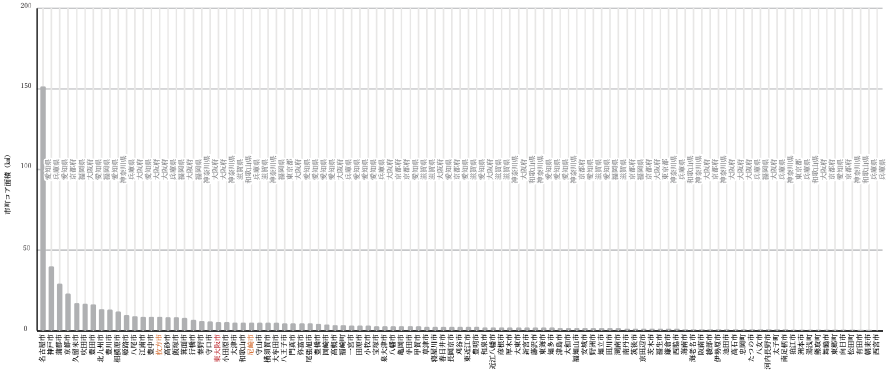
・各市町村の面積・都市機能誘導区域の面積を元に分析

東大阪市は面積は大きいが、都市機能誘導区域の面積は小さい。

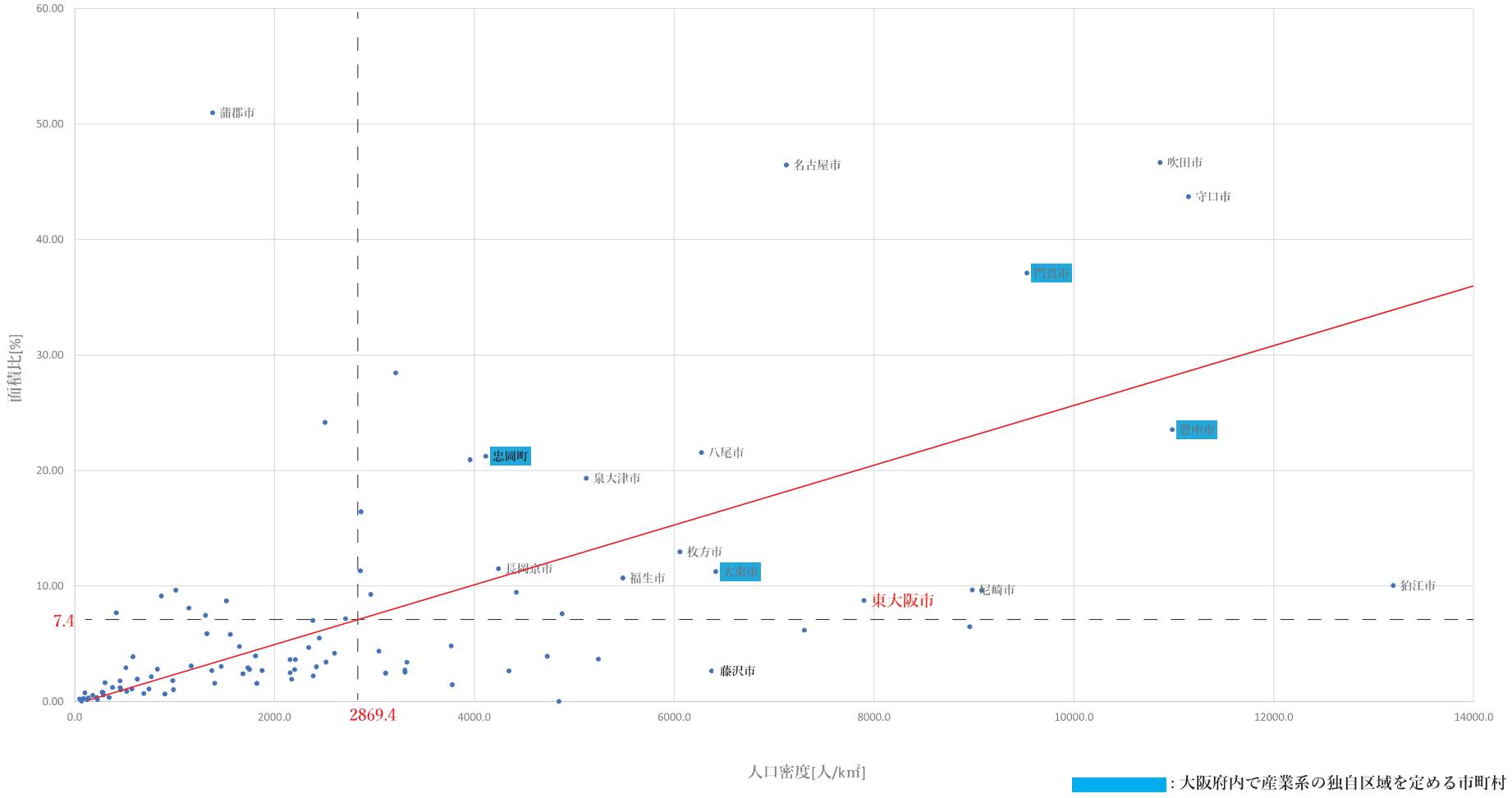
各市町村の面積



各市町村のコア（都市機能誘導区域）面積



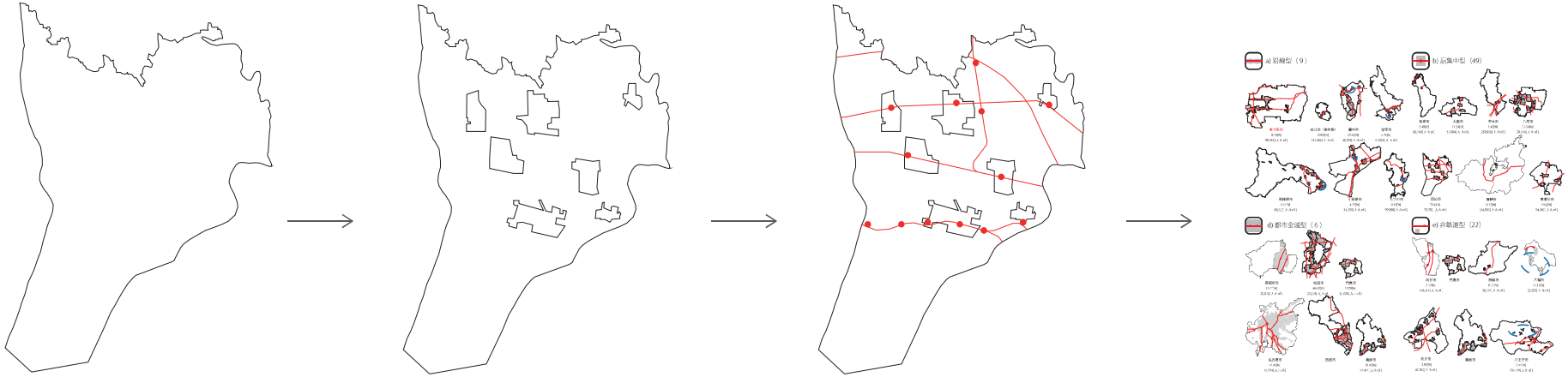
●人口密度と面積比の関係



［リサーチ４］立地適正化計画のアーカイブ

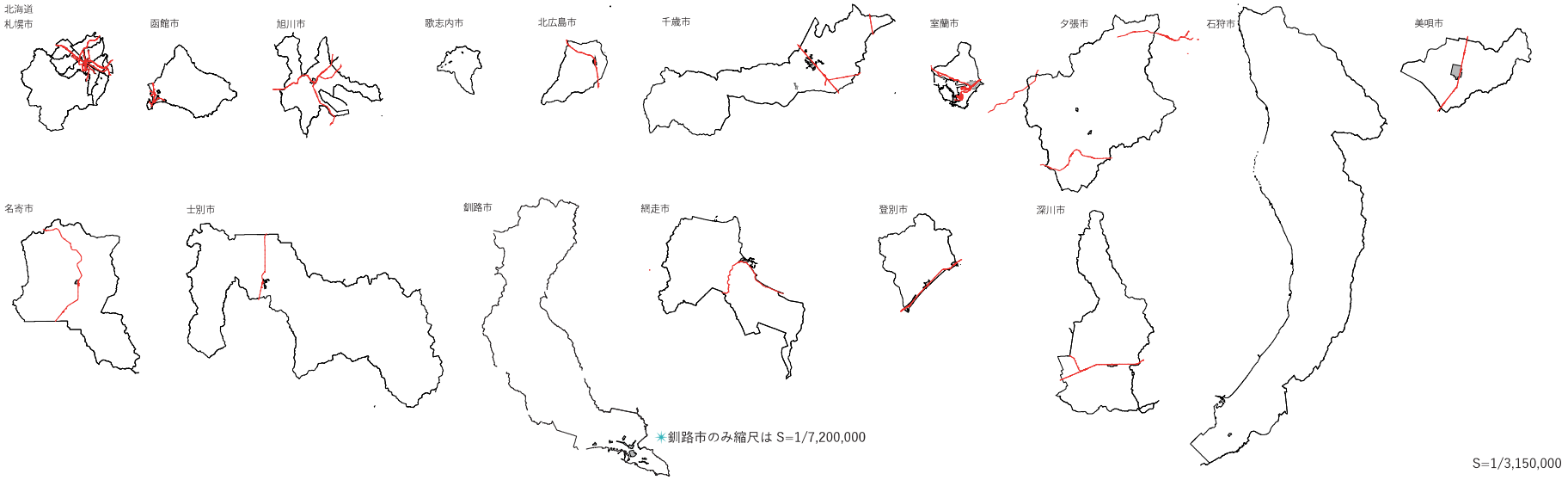
●アーカイブ手法（尼崎市を例に）

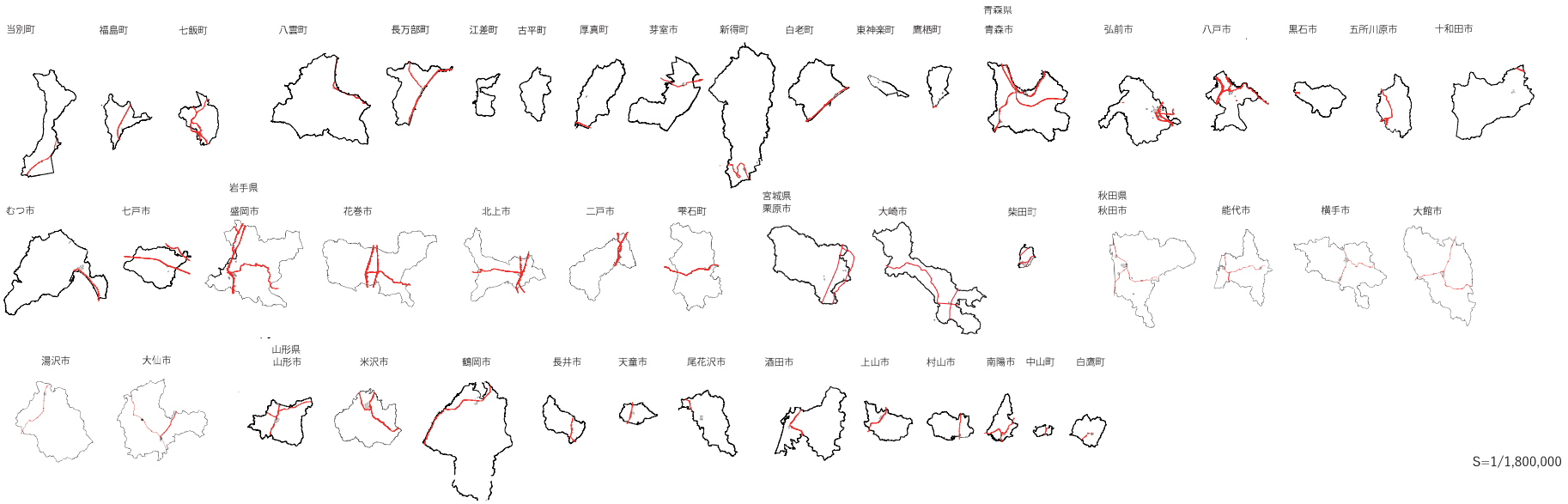
全国の自治体の立地適正化計画の中心に立地する都市機能誘導区域を「都市のコア」と定義し、その配置を分類し、立地適正化計画の現状を調査した。自治体の境界をトレースし、都市機能誘導区域と鉄道駅、路線をトレースする。各市町村のコアの規模と鉄道駅との関係を単純化したダイアグラムを作成した。路線と鉄道駅に対する配置関係に着目し、沿線に沿って群をなしているものや駅とは離れた位置にコアがあるなど、全国の計画が６つのパターンに分類されることが分かった。

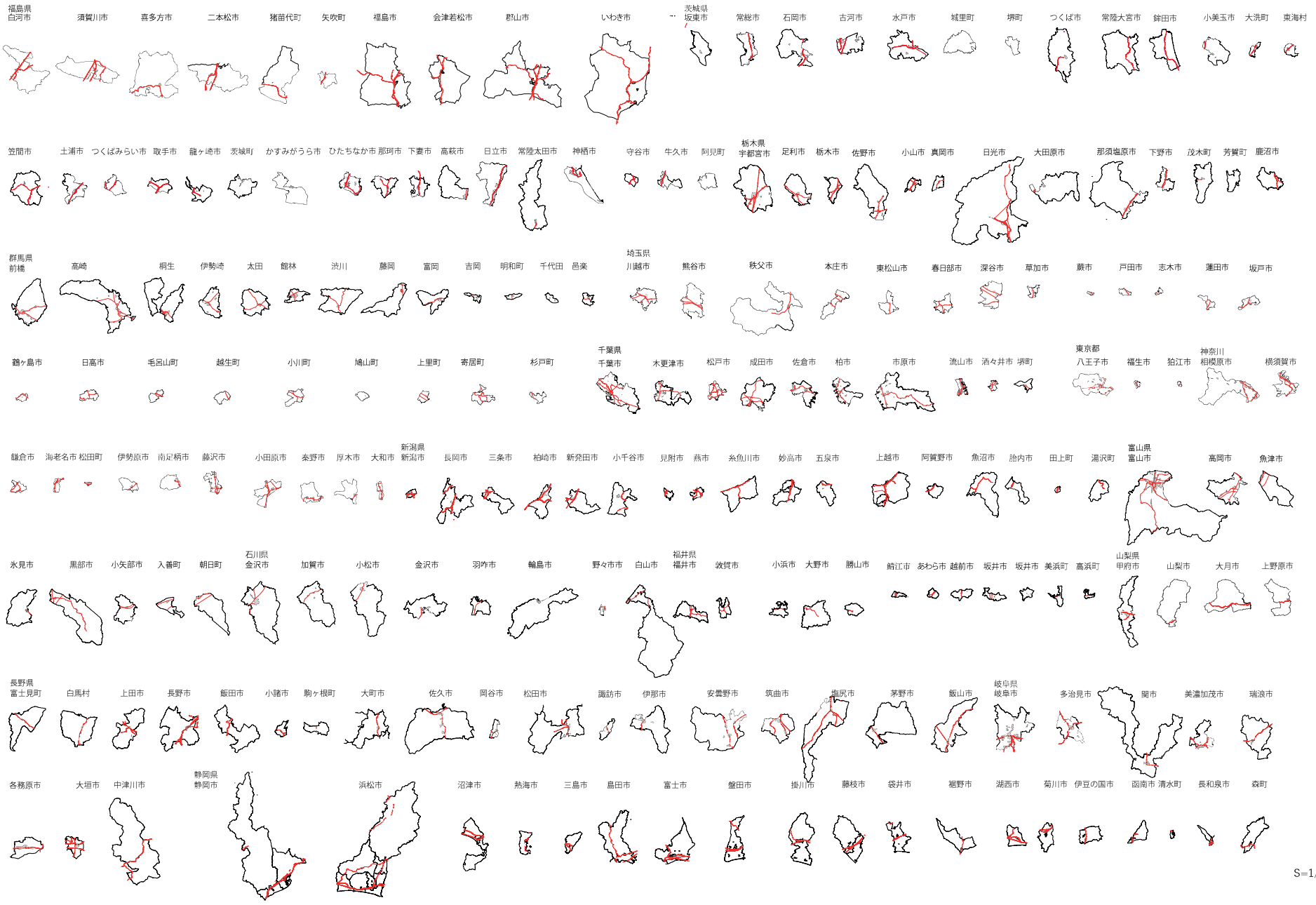


自治体の境界線　　コアのトレース　　鉄道沿線のトレース　　分類

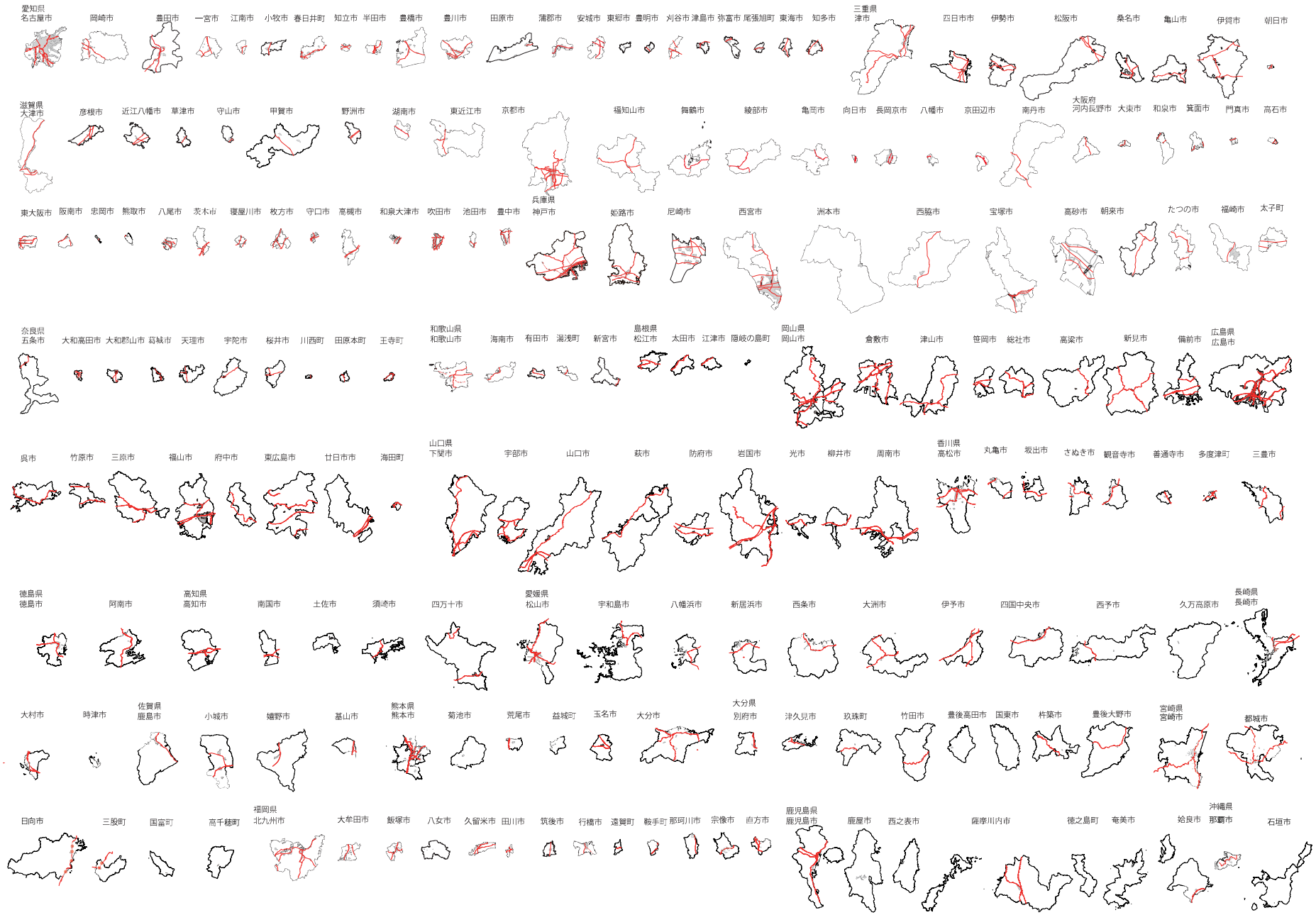
●立地適正化計画のアーカイブ（都市機能誘導区域と鉄道路線の関係）






福島県
白河市
須賀川市
喜多方市
二本松市
猪苗代町
矢吹町
福島市
会津若松市
郡山市
いわき市
茨城県
坂東市
常総市
石岡市
古河市
水戸市
城里町
堺町
つくば市
常陸大宮市
鉾田市
小美玉市
大洗町
東海村
笠間市
土浦市
つくばみらい市
取手市
龍ヶ崎市
茨城町
かすみがうら市
ひたちなか市
那珂市
下妻市
高萩市
日立市
常陸太田市
神栖市
守谷市
牛久市
阿見町
栃木県
宇都宮市
足利市
栃木市
佐野市
小山市
真岡市
日光市
大田原市
那須塩原市
下野市
茂木町
芳賀町
鹿沼市
群馬県
前橋
高崎
桐生
伊勢崎
太田
館林
渋川
藤岡
富岡
吉岡
明和町
千代田
邑楽
埼玉県
川越市
熊谷市
秩父市
本庄市
東松山市
春日部市
深谷市
草加市
蕨市
戸田市
志木市
蓮田市
坂戸市
鶴ヶ島市
日高市
毛呂山町
越生町
小川町
鳩山町
上里町
寄居町
杉戸町
千葉県
千葉市
木更津市
松戸市
成田市
佐倉市
柏市
市原市
流山市
酒々井市
堺町
東京都
八王子市
福生市
狛江市
神奈川
相模原市
横須賀市
鎌倉市
海老名市
松田町
伊勢原市
南足柄市
藤沢市
小田原市
秦野市
厚木市
大和市
新潟県
新潟市
長岡市
三条市
柏崎市
新発田市
小千谷市
見附市
燕市
糸魚川市
妙高市
五泉市
上越市
阿賀野市
魚沼市
胎内市
田上町
湯沢町
富山県
富山市
高岡市
魚津市
氷見市
黒部市
小矢部市
入善町
朝日町
石川県
金沢市
加賀市
小松市
金沢市
羽咋市
輪島市
野々市市
白山市
福井県
福井市
敦賀市
小浜市
大野市
勝山市
鯖江市
あわら市
越前市
坂井市
坂井市
美浜町
高浜町
山梨県
甲府市
山梨市
大月市
上野原市
長野県
富士見町
白馬村
上田市
長野市
飯田市
小諸市
駒ヶ根町
大町市
佐久市
岡谷市
松田市
諏訪市
伊那市
安曇野市
筑曲市
塩尻市
茅野市
飯山市
岐阜県
岐阜市
多治見市
関市
美濃加茂市
瑞浪市
各務原市
大垣市
中津川市
静岡県
静岡市
浜松市
沼津市
熱海市
三島市
島田市
富士市
磐田市
掛川市
藤枝市
袋井市
裾野市
湖西市
菊川市
伊豆の国市
函南市
清水町
長和泉市
森町

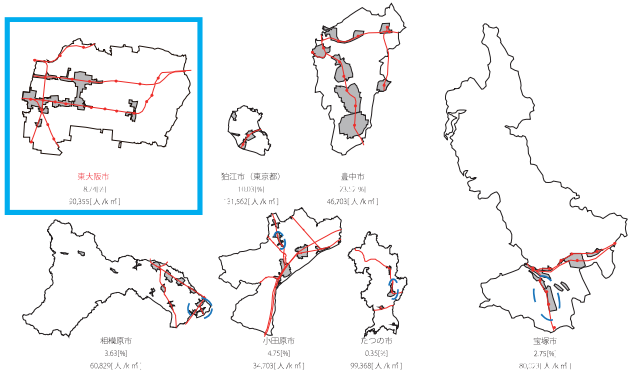
S=1/2000000


愛知県
名古屋市
岡崎市
豊田市
一宮市
江南市
小牧市
春日井町
知立市
半田市
豊橋市
豊川市
田原市
蒲郡市
安城市
東郷市
豊明市
刈谷市
津島市
弥富市
尾張旭町
東海市
知多市
三重県
津市
四日市市
伊勢市
松阪市
桑名市
亀山市
伊賀市
朝日市
滋賀県
大津市
彦根市
近江八幡市
草津市
守山市
甲賀市
野洲市
湖南市
東近江市
京都市
福知山市
舞鶴市
綾部市
亀岡市
向日市
長岡京市
八幡市
京田辺市
南丹市
大阪府
河内長野市
大東市
和泉市
箕面市
門真市
高石市
東大阪市
阪南市
忠岡市
熊取市
八尾市
茨木市
寝屋川市
枚方市
守口市
高槻市
和泉大津市
吹田市
池田市
豊中市
兵庫県
神戸市
姫路市
尾崎市
西宮市
洲本市
西脇市
宝塚市
高砂市
朝来市
たつの市
福崎市
太子町
奈良県
五条市
大和高田市
大和郡山市
葛城市
天理市
宇陀市
桜井市
川西町
田原本町
王寺町
和歌山県
和歌山市
海南市
有田市
湯浅町
新宮市
島根県
松江市
太田市
江津市
隠岐の島町
岡山県
岡山市
倉敷市
津山市
笠岡市
総社市
高梁市
新見市
備前市
広島県
広島市
呉市
竹原市
三原市
福山市
府中市
東広島市
廿日市市
海田町
山口県
下関市
宇部市
山口市
萩市
防府市
岩国市
光市
柳井市
周南市
香川県
高松市
丸亀市
坂出市
さぬき市
観音寺市
善通寺市
多度津町
三豊市
徳島県
徳島市
阿南市
高知県
高知市
南国市
土佐市
須崎市
四万十市
愛媛県
松山市
宇和島市
八幡浜市
新居浜市
西条市
大洲市
伊予市
四国中央市
西予市
久万高原市
長崎県
長崎市
大村市
時津市
佐賀県
鹿島市
小城市
嬉野市
基山市
熊本県
熊本市
菊池市
荒尾市
益城町
玉名市
大分市
大分県
別府市
津久見市
玖珠町
竹田市
豊後高田市
国東市
杵築市
豊後大野市
宮崎県
宮崎市
都城市
日向市
三股町
国富町
高千穂町
福岡県
北九州市
大牟田市
飯塚市
八女市
久留米市
田川市
筑後市
行橋市
遠賀町
鞍手町
那珂川市
宗像市
直方市
鹿児島県
鹿児島市
鹿屋市
西之表市
薩摩川内市
徳之島町
奄美市
姶良市
沖縄県
那覇市
石垣市

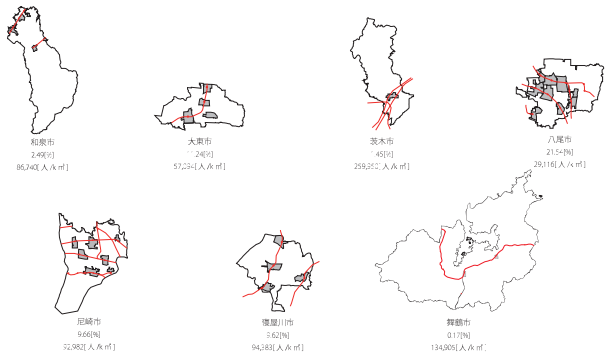
S=1/2000000

●都市機能誘導区域の特徴を鉄道と絡めて型に当てはめて分類

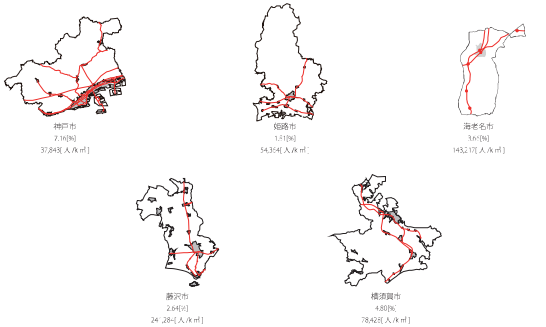
・沿線型



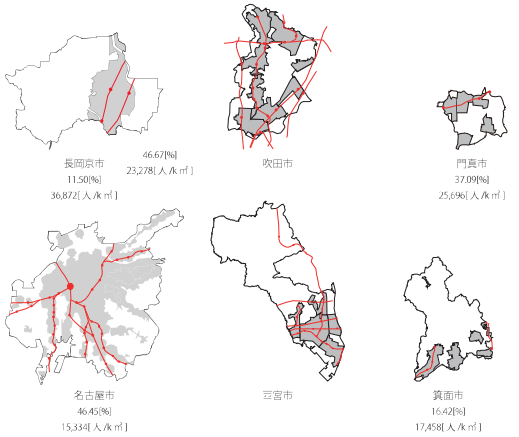
・駅集中型



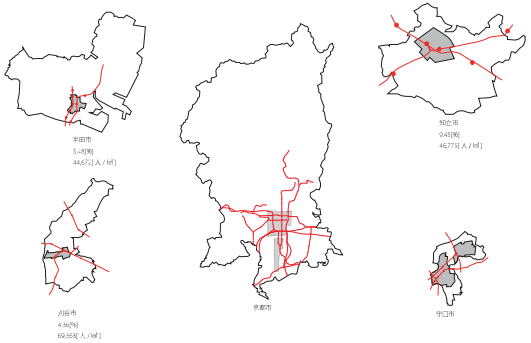
・ハブ＆サテライト型



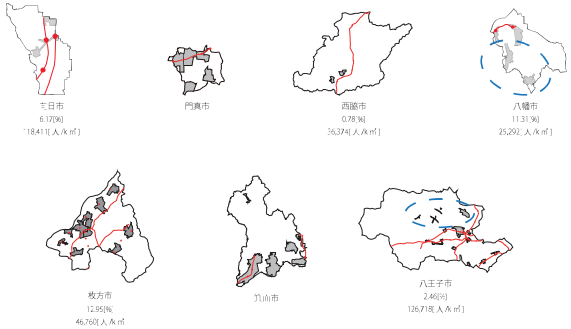
・都市全域型



・非鉄道型



・一極集中型

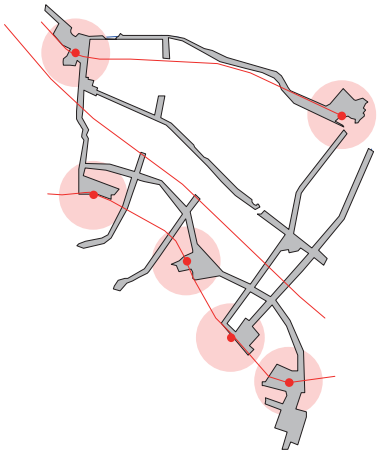


［リサーチ５］道路に着目したアーカイブ

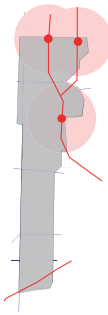
原則、鉄道駅を中心にウォーカブルなまちづくりが進められているはずの都市機能誘導区域が、鉄道駅のない場所に設定されているパターンもみられ、都市機能誘導区域とロードサイドの関係に新たに着目して調査を進めた。ダイアグラムに都市機能誘導区域内の主要幹線道路と、徒歩圏内である駅から半径 800m 圏内を円形で示し、分類を行う。

●駅以外の中心となり得る要素

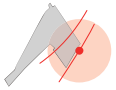
高度経済成長期に日本各地で建設された流通業務団地、もしくは卸売団地は、流通構造の変化や都市構造の変化に伴い、流通業務に特化した街のあり方から、より多様な社会的、経済的、文化的な活動に開かれた街のあり方への変化が求められている。



高砂市の都市機能誘導区域



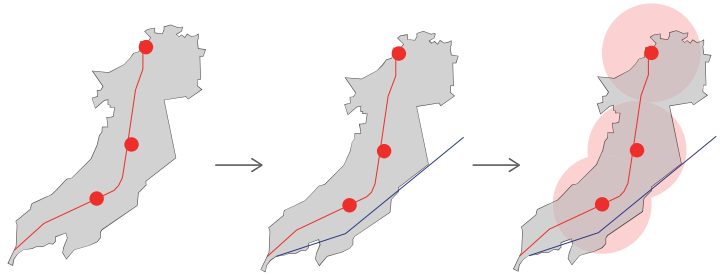
京都市の都市機能誘導区域 1



吹田市の都市機能誘導区域 6

●道路に着目したアーカイブ手法

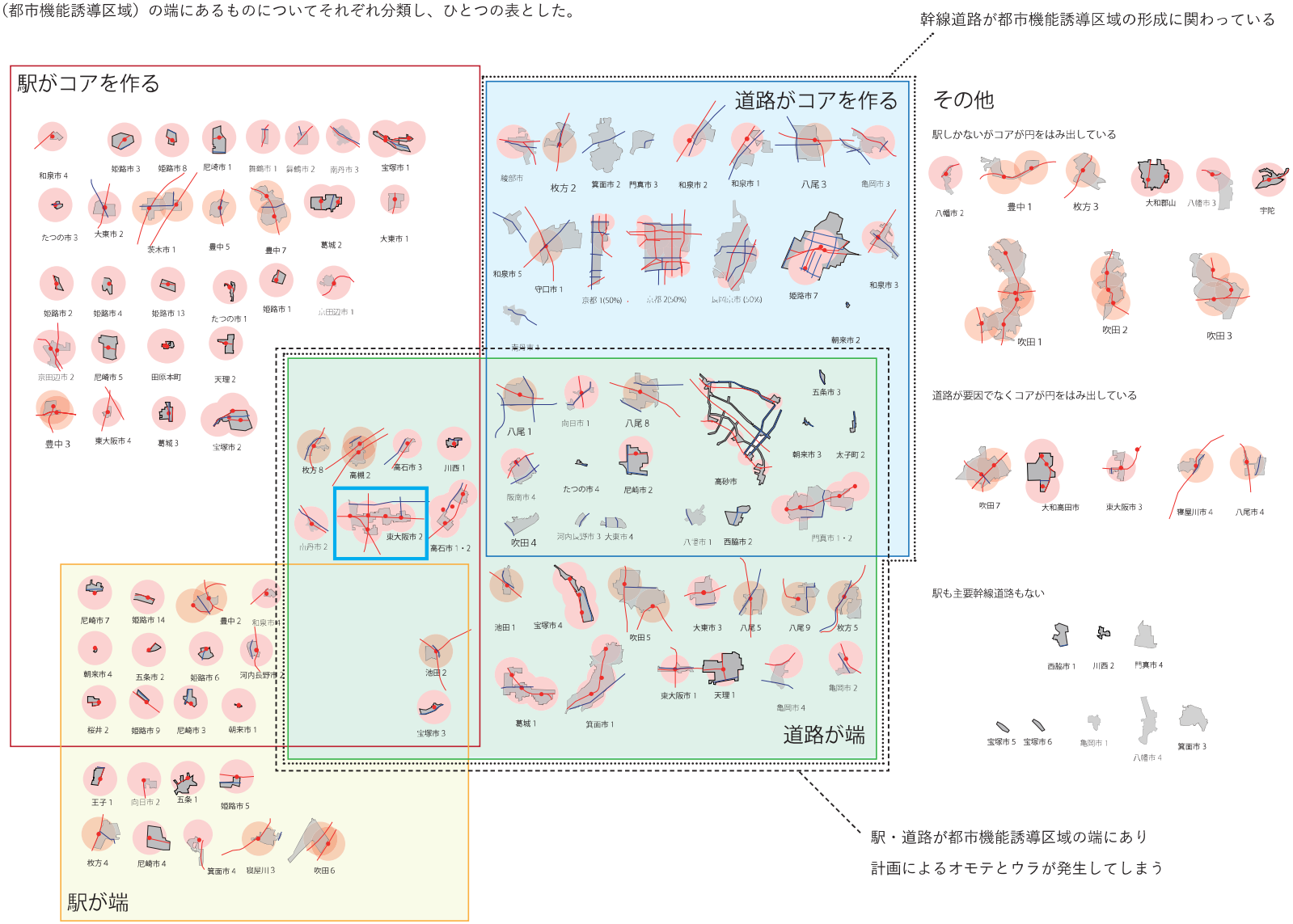
高度経済成長期に日本各地で建設された流通業務団地、もしくは卸売団地は、流通構造の変化や都市構造の変化に伴い、流通業務に特化した街のあり方から、より多様な社会的、経済的、文化的な活動に開かれた街のあり方への変化が求められている。



コアと駅、沿線のトレース　　道をトレース　　駅から 800m 圏内を円で表示

●道路の性質による分類

コアを包括しているもの、駅と道路を両立しているもの、コア（都市機能誘導区域）の端に駅があるもの、
主要幹線道路がコア（都市機能誘導区域）の端にあるものについてそれぞれ分類し、ひとつの表とした。



1-2　プレイスメイキング事例

今回対象となった東大阪市内の５つのエリアは商店街、住宅地、企業団地とその性格や抱えている課題の本質も異なるが、外部空間の使いこなしが積極的に行われていない状況は共通していた。そこで、まちなかの外部空間を居心地の良い、人々の居場所となる空間に変えることで、そこで暮らす人たちの生活の質を高め、まちの新たな可能性を探ることができるのではないかという仮説を立てた。

この仮説に基づき、住環境において居心地の良い心的価値をつくり、生活の質を高める場所づくり「プレイスメイキング」に着目し、事例調査を行うこととした。近年の取り組みでは、居心地の良い場所で人々が思い思いに時間を過ごせることの価値が見出され、さまざまなアクティビティがまちなかに同時に展開する場所作りが試みられている。

学生たちは、まちなかのアクティビティの多様化に貢献していると思われる事例を集め、活動の仕組みや具体的に現れた風景とその効果をレポートしている。

担当：宮部 浩幸

［事例１］　みんなの広場 ー松山市中心市街地賑わい再生社会実験

［事例２］　山形ヤタイ ー合同会社ボタ・株式会社オブザボックス

［事例３］　とよしば　有限会社ゾープランニング・株式会社こいけやクリエイト

［事例４］　竹原　歩いて、楽しむ今昔ストリート

1-3　社会実験事例

行政主導のトップダウンではなく、地域主体のボトムアップのまちづくりを推進する上で、規模は小さいながらも低コスト、短期間で実施でき、成果を体感・共有できる社会実験の試みは有効である。そこで今回の対象エリアで参考になりそうな事例について、日本国内を中心に収集、その概要や効果、課題などを整理した。商店街組合や大学生、交通インフラ企業などをステークホルダーに想定し、商店街の空き店舗や公園、公開空地、駅前広場や高架下などをフィールドとする事例を中心に調査を行った。社会実験は短期間のイベントとして実行されるケースが多く、準備のプロセスにおいてやりたいこと、やれることを持ち寄り、具体的なアクションを通して地域の課題が見えてくる。また小さな成功体験の積み重ねが、地域の多様な人々を結びつけ、まちづくりの推進力となっているように思われる。

担当：髙岡 伸一

［事例１］公園空間活用社会実験①　中小規模公園活用プロジェクト
（西巣鴨二丁目公園、上り屋敷公園）

［事例２］公園活用社会実験②　大通り公園

［事例３］駅前空間活用社会実験　えきまえ VIP

［事例４］商店街空間活用社会実験　icotoco（イコトコ）

［事例５］道路空間活用社会実験　御堂筋パークレット社会実験〔淀屋橋編〕
～愛称名：いちょうテラス淀屋橋

［事例６］高架下活用社会実験　武雄市まちなか公共空間社会実験第２弾
「武雄ストリートパーク」

［事例７］公開空地活用社会実験　Shinjuku Share Lounge 2018

［事例８］水辺空間活用社会実験　大淀川リビング

［事例９］その他の社会実験事例調査一覧

●参考文献

[1] 小規模公園の活用プロジェクトについてなど ,2019/12/19, https://ameblo.jp/hosokawamasahiro/entry 12560542431.html

[2] 豊島区中小規模公園活用プロジェクト ,2023/04/ 豊島区公式ホームページ , https://www.city.toshima.lg.jp/454/shisetsu/koen/2206271555.html

[3] 小さな公園を公民連携で活性化、豊島区 ,2019/12/27, https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/434167/122600134/?P=4

[4] 豊島区中小規模公園活用プロジェクト調査・企画・ワークショップ運勢支援 GrooveDesigns , https://groove designs.com/project/toshima_park_placemaking/

[5] 豊島区が取り組む小規模公園の未来のあり方（前編）) ,2020/01/ 無印良品 , https://localnippon.muji.com/5283/

[6] 豊島区が取り組む小規模公園の未来のあり方（後編）) ,2020/01/ 無印良品 . https://localnippon.muji.com/5347/

[7] 小さな公園の大きな可能性 ,2019/07/ 無印良品 , https://localnippon.muji.com/4537/

[8] まちの小さな公園に出現 .2018/01/ 無印良品 , https://localnippon.muji.com/3143/

[9] 豊島区で小規模公園活用プロジェクトが進行中 ,2020/03/13,LIFULL HOME' S 介川亜紀 , https://www.homes.co.jp/cont/press/rent/rent_00769/

[10] 豊島区のみどりの現状 , https://www.city.toshima.lg.jp/339/ryokuka/documents/greenplan_01_subdoc2.pdf

[11] 大通り公園社会実験A3 概要書 ,[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/toshin/genshichoshagaikutou/koukyou/R3_KANNAIekitikaPJ.files/0135_20220405.pdf

[12] 社会実験「大通り公園に、寄り道しよう。」フライヤー , https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/toshin/genshichoshagaikutou/koukyou/R3_KANNAIekitikaPJ.files/0106_20211130.pdf

[13] 大通り公園によりみちしよう ,[https ://yorimichi odoripark.wixsite.com/yorimichi/ about

[14] 関内駅周辺地区のまちづくり ,2020/06/ 横浜市公式ホームページ , https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/toshin/genshichoshagaikutou/kannaiekisyuhen.html# ACP

[15] 津島市第1回津島駅前社会実験「えきまえVIP」（令和3年10月16日、17日）https://www.city.tsushima.lg.jp/kurashi/sumaikenchiku/shakaijikken/shakaijikken1.html

[16] ソトノバ 駅まち空間を考える第一歩とは？津島駅周辺整備を見据えた社会実験えきまえ VIP https://sotonoba.place/tsushimaekimachi

[17] 津島駅前社会実験 えきまえVIP https://www.city.tsushima.lg.jp/kurashi/sumaikenchiku/shakaijikken/shakaijikken1.files/kekkagaiyou.pdf

[18] 銀天街まちなか空間活用実験 https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/toshikeikaku/Urbandesign/170520_placemaking.files/pamphlet.pdf

[19] 松山市 銀天街まちなか空間活用実験 https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/toshikeikaku/Urbandesign/170520_placemaking.html

[20] ワークショップの開催結果 https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/toshikeikaku/Urbandesign/170520_placemaking.files/170802_03.pdf

[21] 一般社団法人御堂筋まちづくりネットワーク https://www.midosuji.biz/recommendation/parklet

[22] たけおポータル http://www.city.takeo.lg.jp/topics/shinkansen/convenient/142takeo.html
https://www.city.takeo.lg.jp/topics/shinkansen/uploads/20211203_hub_gyoumuhoukokusyo.pdf

[23] アナバナ https://anaba na.com/23336.html

[24] グーグルマップ https://www.google.com/maps/search/%E4%BD%90%E8%B3%80%E7%9C%8C%E6%AD%A6%E9%9B%84%E5%B8%82%E5%B8%82%E5%BD%B9%E6%89%80%E9%A7%90%E8%BB%8A%E5%A0%B4/@33.2276638,129.9954568,12z

[25] 神戸市 HP https://www.city.kobe.lg.jp/documents/38680/gaiyou.pdf

[26] 姫路市 HP https://www.city.himeji.lg.jp/sangyo/0000012733.html

[27]BELOVED STREET MIDOSUJI https://www.midosuji.biz/topics/4916

[28] 関西支部だより https://pub.cpij kansai.jp/post 1163/

[29] 船場 navi https://semba navi.com/event/openstreet2022/

[30] 堺市 HP https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/kangoutoshisakainosaisei/kekkahoukoku.html

[31] 日本オートキャンプ HP https://www.autocamp.or.jp/post 14158/

[32]BEYOND ARCHITECTURE ケンチクとカルチャーを言語化するメディア ,2018/04/03,moe fujisue , NICHIESU, https://beyondarchitecture.jp/magazine/pointofview/supported by nichiesu vol 2/

[33] 公園 におけるキッチンカー出店の社会実験報告書 ,2021/12/ 和泉市の公式 WEB サイトより , https://www.city.osaka-izumi.lg.jp/material/files/group/40/kekka.pdf

[34] 日常 を劇場へ 南池袋公園公式ホームページ , https://ikebukuropark.com/mip greenblvd/

[35] 廃車アート展示 11/19 公園アートプロジェクト ,2022/11/24,NACKPLANNING, https://www.nackplanning.co.jp/blog/event information/150641

[36] ミチを楽しむとヒトが変わり、マチも変わる！？ パブリックマインドを育てる社会実験「 OPEN STREET FUKUYAMA 」https://sotonoba.place/openstreetfukuyama

[37] 社会実験守口さんぽ〜守口らしさをさがして https://pub.cpij kansai.jp/post 1187/

[38] ガシノワ 堺東駅前 広場における交流空間の創出に向けた社会 実験 https ://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/machizukuri/shakaijikken.html

[39] まちやどり tottori https ://tottoriwedo.wixsite.com/machiyadori/%E6%88%90%E6%9E%9C

[40] 令和 3 年度 やまがた re v ing すずらん 通りにおける社会実験の概要 https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/007/440/r3gaiyousuzuran.pdf

[41] 新宿副都心エリア環境改善委員会 社会実験 2018 イベント概要 https://welcometoshinjuku.jp/pilot_program/past_2018.html

[42]Shinjuku Share Lounge 2018 開催 180927 Shinjuku Share Lounge 2018 プレスリリース .pdf (welcometoshinjuku.

[43] ホテル日航大阪前にキッチンカーとフラワーカー 歩道拡幅に向け社会実験（なんば経済新聞）https://namba.keizai.biz/headline/4757/

[44] ホテル日航大阪 Twitter https ://twitter.com/nikkoosaka/ 1455757527795208198

[45] 年末年始の素敵なまちの風景をみんなでつくろう 住宅都市局都市計画部ウォーカブル・景観推進室 https://www.city.nagoya.jp/jutakutoshi/cmsfiles/contents/0000159/159699/221222_koukaikuuti_.pdf

[46] 名古屋市 公開空地等のこれからの使い方を考える社会実験 https://www.city.nagoya.jp/jutakutoshi/page/0000155601.html

[47] 名古屋駅前のビル公開空地 3 か所にシェアサイクルのポート開設 社会実験で https://meieki.keizai.biz/headline/3291/

[48] 大淀川水辺空間活用探る 宮崎日日新聞（ 2022/05/18 https://www.the miyanichi.co.jp/chiiki/category_8/_62850.html

[49] 住民のパブリック・リビングを大淀川へ ,MIZBERING 2020/01/15 https://mizbering.jp/archives/26559

[50] 第 4 回大淀川リビング開催決定！！ 国土交通省 https://mizbering.jp/archives/26559

[51] 水の都の “川辺のまち並み” をつくる GK Design Soken Hiroshima https://www.gk design.co.jp/dsh/lad/mizunomiyako.html

[52] 事例番号 116 水辺からのまちづくり 国土交通省 https://www.mlit.go.jp/crd/city/mint/htm_doc/pdf/116hiroshima.pdf

1-4　卸売団地事例

高度経済成長期に日本各地で建設された流通業務団地、もしくは卸売団地は、流通構造の変化や都市構造の変化に伴い、流通業務に特化した街のあり方から、より多様な社会的、経済的、文化的な活動に開かれた街のあり方への変化が求められている。この基礎調査では、日本全国の卸売団地を対象に、それぞれが立地する自治体が策定する立地適正化計画における位置付けとともに、新たな街のあり方への展開の実態を文献、インターネット、そして現地調査により整理した。長田地区と類似した立地条件である最寄りの公共交通機関の駅から徒歩圏内の目安とされる半径 800m 以内に位置する卸売団地である札幌、仙台、高崎（タイプ 1）は、いずれも都市機能誘導区域に指定されており、地区計画策定とともにまちづくりや不動産開発などそれぞれのビジョンに基づいて新しい街のあり方への転換が図られている。同じ立地条件だが、居住誘導区域に指定されている徳島、金沢（タイプ 2）は、イベントやマーケットによる新たな集客誘導を図っている。一方、中心市街地から少し離れるものの自動車によるアクセスに優れた岡山、高知（タイプ 3）は、組合の約款や協定を改定しながら卸売業以外の立地を誘導し、都市における新たな集客拠点として生まれ変わっている。

担当：堀口 徹

［リサーチ］日本の卸売団地と立地適正化計画

［事例 1］札幌総合卸センター

［事例 2］仙台卸商センター

［事例 3］高崎卸商社街

［事例 4］岡山県卸センター

［事例 5］高知卸商センター

［事例 6］秋田卸センター

［事例 7］金沢問屋センター

［事例 8 -10］千葉総合卸商業団地 / 大阪金物団地 / 神戸船用品センター

［事例 11-12］松江卸センター / 呉食料品卸センター

［事例 13］徳島繊維卸団地

［リサーチ］日本の卸売団地と立地適正化計画

●全国の卸売団地の分布

全国卸商業団地協同組合連合会（商団連）に加盟している日本各地の卸商業団地の分布と立地適正化計画の実態。全 99 団地のうち 13 団地がそれぞれの自治体が策定する立地適正化計画に位置付けられ、かつ長田地区の卸売団地と類似した立地条件である。



●立地適正化計画と最寄り駅からの距離の関係【条件】に該当する 13 の卸売団地

前ページでマッピングした長田地区の参考になりそうな卸商業団地だけを抜き出したている。



●日本における主な卸売団地（流通業務団地）の実態

↓各市町村における立地適正化計画における都市機能／居住機能誘導区域との関係。

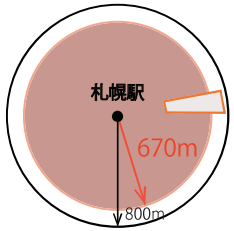
	組合／団地の基本情報					都市計画／協定／約款など				交通利便性／立地条件				既存建築		周辺施設			卸売業以外の新規立地機能（※誘導機能の区分を参照）						市民開放型のイベント		
	組合名／団地名	組合設立年	団地完成年	扱う素材・商品	所在地	用途地域	地区計画区域	定款、約款、協定の変更	立地適正化計画における位置付け	最寄り駅からの距離（800m以内は太字）	中心市街地（駅）からの距離	国道県道等主要幹線道路の交差点からの距離	高速道路インターからの距離	連棟式建屋	組合会館	団地内外の大型商業施設の有無	大型商業施設（生活利便系）	宿泊施設	商業機能（小売・飲食・サービス）	医療・福祉機能	子育て支援機能（保育所・託児所含む）	教育・文化施設	居住機能（集合住宅等）	備考	倉庫市（組合主催）	その他の取り組み	ホームページ（組合、市町村都市計画）
1	（協） 大阪紙文具流通センター	1969年	1971年	紙・文具　58	大阪府東大阪市長田中	商業地域 （流通業務地区）			都市機能誘導準備区域	**385m** **（長田駅）**	3180m （布施駅）	679m （国道308号線／(仮)2号線）	487m （堂大阪荒元IC）	○		○	フレスポ長田	○									http://www.kamibung.com/
2	大阪メルカート（協）	1968年	1974年	鞄雑・革製品等	大阪府東大阪市長田中	商業地域 （流通業務地区）			都市機能誘導準備区域	**251m** **（長田駅）**	2970m （布施駅）	698m （国道308号線／(仮)2号線）	605m （東大阪荒元IC）	○		○	フレスポ長田	○							○		http://www.osaka-mercato.org/
3	（協） 札幌総合卸センター	1966年	1968年	茶　2 文具・日用品雑貨・化粧品　3 建築資材　2 環境設備・機械・情報　3 飲料　1 医薬品　1 繊維・アジア雑貨　2	北海道札幌市東区北	商業地域	地区計画区域		都市機能誘導区域	670m （札幌駅）	670m （札幌駅）	400m （国道5号線／(仮)道273号線）	3720m （札幌北IC）	○	○建替え	○	札幌駅内 アリオ札幌	○	◎予定 ビル下層部	○予定	×	○	高層マンション	レンタルオフィス	×	×	https://www.sapporo-oroshi.jp/
4	（協）秋田卸センター	1970年	1972年	食品　10 衣類　6 文具・日用品雑貨 建築資材　14 電気・機械・建設　9 鋼材・鉄料・農業　2 化学・医療品・ガス　4 窯炎・素石　3 団体　6	秋田県秋田市卸町	商業地域		○定款変更 1995年 1997年 2000年 2005年 2018年	一部区位誘導区域 （公共交通の利便区域）	585m （羽後牛島駅）	2710m （秋田駅）	416m （(仮)13号／(仮)28号線）	6980m （秋田中央IC）	×	○改修	○	コジマ×ビックカメラ	○	秋田まるごと市場 ○チェーン店多め	○ 介護施設	×	×	集合住宅 戸建て住宅	×	×	×	https://www.akitaoroshi.jp/
5	（協） 仙台卸商センター	1965年	1970年	食品　46 日用雑貨　68 繊維　31 建材　16 機械　63	宮城県仙台市若林区卸町	商業地域 （杜沢北部地区）	地区計画区域	○	都市軸・交通結節点 一部都市機能誘導区域 一部居住誘導区域	554m （20可以）	3490m （仙台駅）	812m （国道4号線／準道137号線）	1940m （若竹IC） 2710m （仙台東IC）	×	○改修	○	イオンスタイル仙台卸町	×	□ チェーン店	○ 内科・内視鏡内科 歯科医院	○（2018）	○	集合住宅	演劇工房、音楽スタジオ、コワーキングスペース	○	夏祭り、野外上映会、公園ライトアップ	http://www.sor-sendai.co.jp/
6	高崎卸商社街（協）	1963年	1967年	食品　20 日用雑貨　68 繊維　23 建材・機械　52 団体　68	群馬県高崎市問屋町	商業地域	地区計画区域	○	都市機能誘導区域 居住誘導区域	506m （高崎問屋町駅）	2800m （高崎駅）	751m （国道17号線／県道25号線）	3260m （前橋IC）	×	○建替え	×		×	◎ チェーン店	○ 在宅医療サービス、介護施設	×	○	集合住宅 戸建て	アートギャラリー、バー×大学（医療系）	○	ビエント寄席、個商祭	http://www.vienta-takasaki.or.jp/
7	千葉総合卸商業団地（協）	1967年	1971年	食品、衣料品、文具、事務機、靴、図物等	千葉県千葉市中央区問屋町	商業地域			居住誘導区域	361m （市役所前駅）	1090m （千葉駅）	246m （国道16号／県道14号）	3700m （松ヶ丘IC）	×	？	○	千葉ポートタウン イオンタウン	○	◎ 小規模から大規模	○ 歯医者、介護施設 在宅医療サービス	×	○	集合住宅	千葉ポートアリーナ 職業訓練学校	×	×	なし
8	（協）金沢問屋センター	1963年	1967年	食品　4 繊維　4 文具・日用品雑貨　32 建築資材　8 電気・機械・建設　31 化学・医療品・ガス　8 その他　20	石川県金沢市問屋町	内文地域			一般的住宅区域	747m （三口駅）	3220m （金沢駅）	1080m （国道8号／(仮)道299）	2780m （金沢東IC）	×	○隣接	×	×	×	◎ 小規模 コンビニ	○ 介護施設 老人ホーム	○	○ 予定校・診物	戸建て住宅	ギャラリー	×	人力生とのコラボ	https://kanazawa.or.jp/
9	大阪金物団地（協）	1964年		文具　1 建築建材　37 工具・機械・設備（金物）　9 その他　6	大阪府東大阪市金物町	商業地域			居住誘導区域	1010m （弥刀駅）	3560m （布施駅）	152m （県道2号線／174号線）	555m （東大阪南IC）	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	https://www.kanamonodanchi.co.jp/wordpress/
10	（協）神戸船用品センター					準工業地域			広域型都市機能誘導区域 居住誘導区域	157m （北埠頭駅）	2960m （神戸三宮駅）	2160m （国道2号線）	2200m （京橋）	○		○	IKEA神戸	×	○ 1つ	×	×	×	×	×	×	×	
11	（協）松江卸センター	1967年	1972年	食品　9 繊維　3 文具・日用品雑貨　1 建築資材　4 工具・機械・鉛金　1 化学・医療品・ガス　1	島根県松江市姫島町	商業地域			都市機能誘導区域 居住誘導区域	729m （乃木駅）	1870m （松江駅）	758m （県道193号／263号）	1640m （松江中央IC）	×		×	×	×	○ コンビニ パチンコ ゲームセンター	○ 高齢者専用住宅 歯医者	×	×	△ 高齢者専用住宅	ライブ会場	×	×	http://www.matsue-oroshi.com/
12	（協） 岡山卸センター	1963年	1968年	○繊維卸業中心 衣類・繊維　22 文具・日用品　7 電気・機械・建設　2 情報サービス　2	岡山県岡山市北区問屋町	商業地域		○ 2000年	居住誘導区域	1030m （北長瀬駅）	3570m （岡山駅）	556m （県道162号線／244号線）	5570m （吉備スマートIC）	×	○建替え	○	問屋テラス （プランド岡山北長瀬）	×	◎小規模 個人店	○ 屋婦人科、皮膚科・耳鼻咽喉科	○（2018）	○	集合住宅 （犬）多い	放課後児童クラブ、コワーキングスペース	○	ウォールアート	https://tojaw-chu.com/
13	（協）呉食料品卸センター	1975年	1977年	食品　19 衣類　1 文具・日用雑貨　7 工具・機械・鉛金　1 その他　1	広島県呉市光町	近隣商業地域			都市機能誘導区域 居住誘導区域	540m （川原石駅）	1870m （呉駅）	325m （国道31号）	2410m （(仮)IC）	○		○	鮮Do！エブリイ 呉海岸店	×	○	×	×	×	団地外に 共同住宅	×	×	×	https://www.kure-oroshi.com/
14	（協）徳島繊維卸団地				徳島県徳島市問屋町	準工業地域			居住保護区域	564m （文化の森駅）	2940m （徳島駅）	551m （県道203号）	3530m （徳島東IC）	○		○	ケーズデンキ	×	◎ 雑貨、料理店	×	×	×	×	ダンススタジオ	○	日曜市	なし
15	高知卸商センター（協）	1969年	1974年？	食品食品　15 衣類　6 文具・日用品雑貨　14 建築資材　5 電気・機械・建設　4 鋼材・鉄料・農業　2 化学・医療品・ガス　4 窯炎・素石　1 他社　7	高知県高知市南久保	準工業地域		○2003年 建蔽協定 一部変更	居住誘導区域	1090m （知寄町3丁目駅）	2130m （高知駅）	578m （県道374号線／384号線）	703m （高知中央IC）	×	○建替え	○	高知蔦屋書店	×	◎小規模から中規模 までさまざま	×	○	×	× 集合住宅・戸建て住宅隣接	子育て支援センター Kids Park CHUCHU	○	お祭り（さくらまつり） 子育て広場・施開放	https://oroshidanchi.or.jp/

↑中心市街地型（公共交通期間最寄駅から 800m 圏内に立地）

●事例を 3 タイプに分類（立地適正化計画における「徒歩圏内」半径 800m を採用した分類）

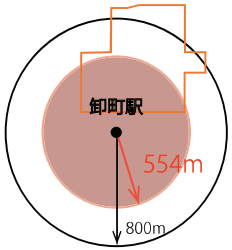
・タイプ 1

公共交通機関から半径 800m 以内かつ立地適正化計画の都市機能誘導区域を含む。



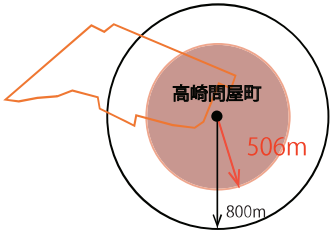
札幌総合卸センター

老朽化する札幌総合卸センター既存ビルを取り壊し、売却。その跡地ではマンションやホテル、病院などの建設が進められる。流通団地としての機能がない。



仙台卸商センター

シェアオフィスやせんだい演劇工房、音楽スタジオなど様々な拠点がある。

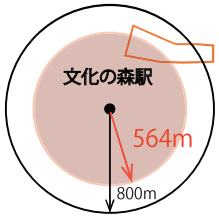


高崎卸商社街

群馬パース大学を誘致。アートギャラリーでは、群馬県を活動拠点にするアーティストの代表的な作品を展示販売する。

・タイプ 2

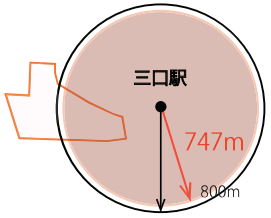
公共交通機関から半径 800m 以内かつ立地適正化計画の居住誘導区域を含む。



徳島繊維卸団地

三が日を除いて、毎週日曜日に旬の農作物や衣服、日用品といった幅広いジャンルの品を対面販売する徳島びっくり日曜市が行われる。

中心市街地から 2940m



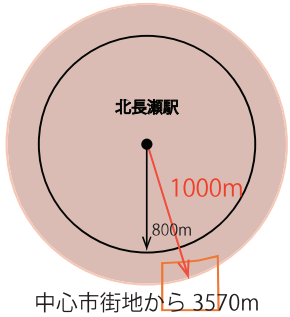
金沢問屋センター

金沢美術工芸大学と「金沢問屋町の街づくりに関する協定書」を締結。アートイベントに力を入れる。
（　連棟長屋の利用　）

中心市街地から 3220m

・タイプ 3

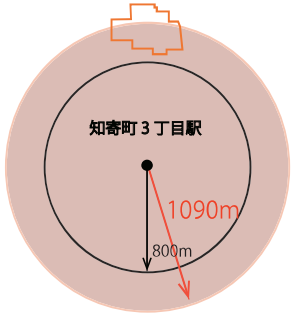
公共交通機関から半径 1000m 圏かつ立地適正化計画の居住誘導区域を含む。



岡山卸センター

倉庫街から卸売業やおしゃれなショップ、クリエイターの事務所などが混在する街に変貌。
（　連棟長屋の利用　）

中心市街地から 3570m



高知卸商センター

倉庫をリノベーションした広々とした店内と開放的なテラス席が特徴の蔦屋書店が建つ。子育て支援に力を入れている。

中心市街地から 2130m

中心市街地から半径 2000~4000m 内に位置する＝郊外型

2 「市の中心拠点」への提案

2-1　長田

2-2　荒本

2-1　長田

高度経済成長期に日本各地で建設された流通業務団地、もしくは卸売団地は、流通構造の変化や都市構造の変化に伴い、流通業務に特化した街のあり方から、より多様な社会的、経済的、文化的な活動に開かれた街のあり方への変化が求められている。この基礎調査では、日本全国の卸売団地を対象に、それぞれが立地する自治体が策定する立地適正化計画における位置付けとともに、新たな街のあり方への展開の実態を文献、インターネット、そして現地調査により整理した。長田地区と類似した立地条件である最寄りの公共交通機関の駅から徒歩圏内の目安とされる半径 800m 以内に位置する卸売団地である札幌、仙台、高崎（タイプ 1）は、いずれも都市機能誘導区域に指定されており、地区計画策定とともにまちづくりや不動産開発などそれぞれのビジョンに基づいて新しい街のあり方への転換が図られている。同じ立地条件だが、居住誘導区域に指定されている徳島、金沢（タイプ 2）は、イベントやマーケットによる新たな集客誘導を図っている。一方、中心市街地から少し離れるものの自動車によるアクセスに優れた岡山、高知（タイプ 3）は、組合の約款や協定を改定しながら卸売業以外の立地を誘導し、都市における新たな集客拠点として生まれ変わっている。

担当：堀口 徹

［リサーチ 1］長田の流通業務団地

［リサーチ 2］卸売団地の現況

［提案の基本的な考え方］開かれた卸のまちへ

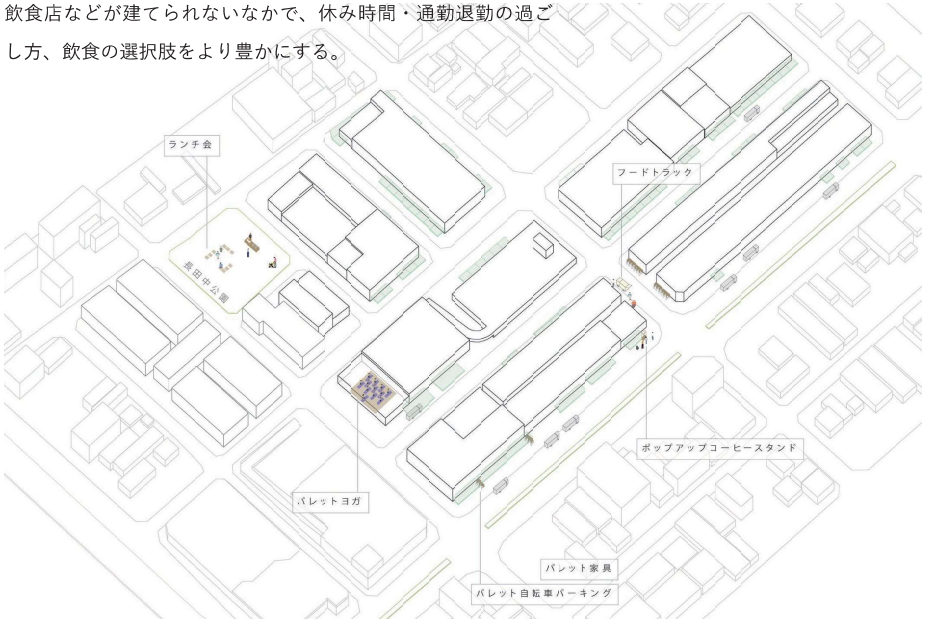
［提案 1］働く環境を豊かに

［提案 2］市民・クリエイターが訪れるまちに

［提案 3］新しいコラボレーターとつくる新しい卸のまち

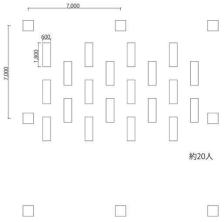
[提案１] 働く環境を豊かに

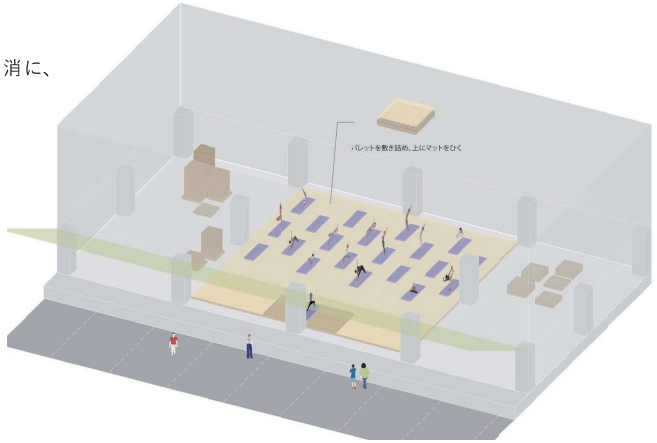
飲食店などが建てられないなかで、休み時間・通勤退勤の過ごし方、飲食の選択肢をより豊かにする。



●パレットヨガ

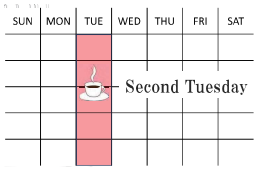
仕事の息抜きに、運動不足解消に、誰でも参加可能！

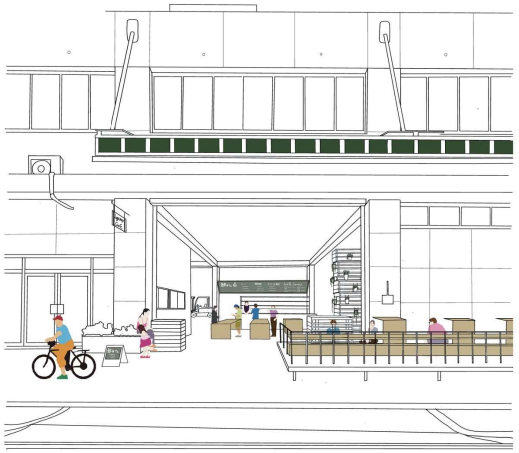




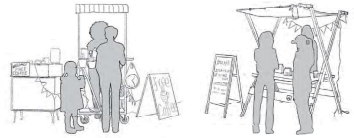
●ポップアップコーヒースタンド

コーヒー販売、豆販売、焙煎体験、美味しいコーヒーの淹れ方ワークショップなどを行う。







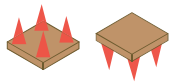


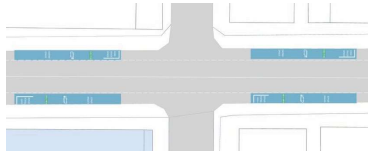
●フードトラック

路上駐車禁止のために配置されているカラーコーンを減らすためにロードペイント行う。



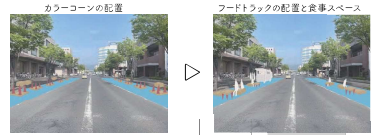
路上駐車禁止コーンを利用した机





カラーコーンの配置

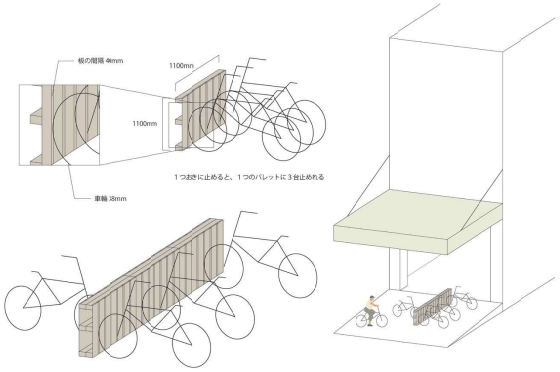
フードトラックの配置と食事スペース



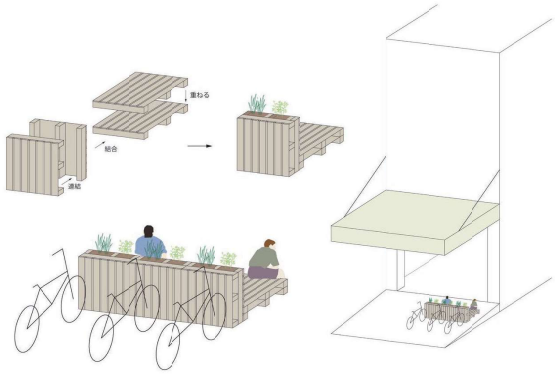
●パレット自転車パーキング / パレット家具

ともすれば乱雑になりかねないキャノピー下の空間を、物流パレットの配列と組み合わせを工夫することで駐輪、休憩、コーヒースタンドやランチテーブル、植栽プランターといった多様な活動風景を生み出していく。

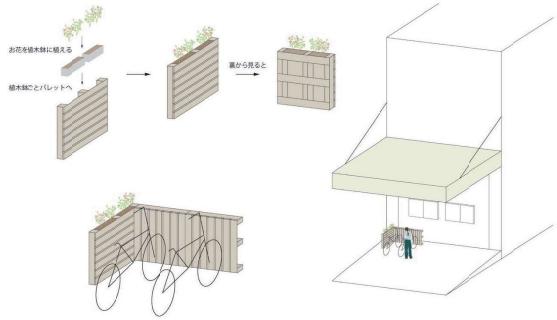
止めてある自転車が多いため、両面止めれるように。



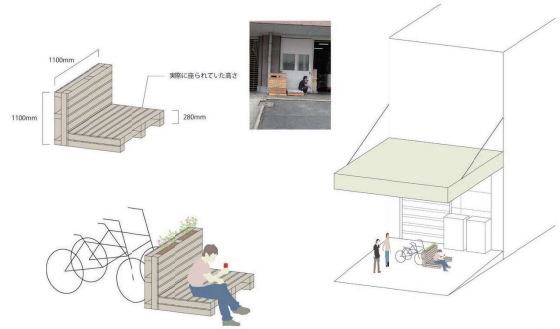
作業場に面している側は、腰掛けて一息つけるように。



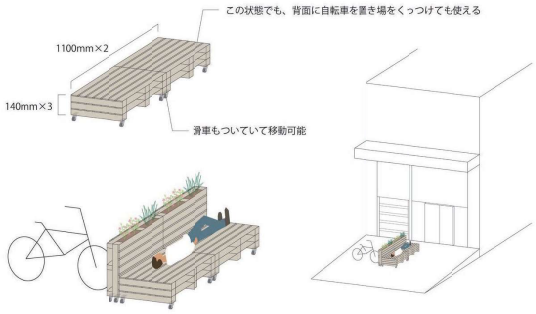
自立するようにL字型に。今までなかった緑をおくことでリラックス効果をもたらす。



自販機が近くにあるため、腰掛けて飲めるように、
イスと自転車置き場に。



お昼寝がしたくなったら寝転べるように。



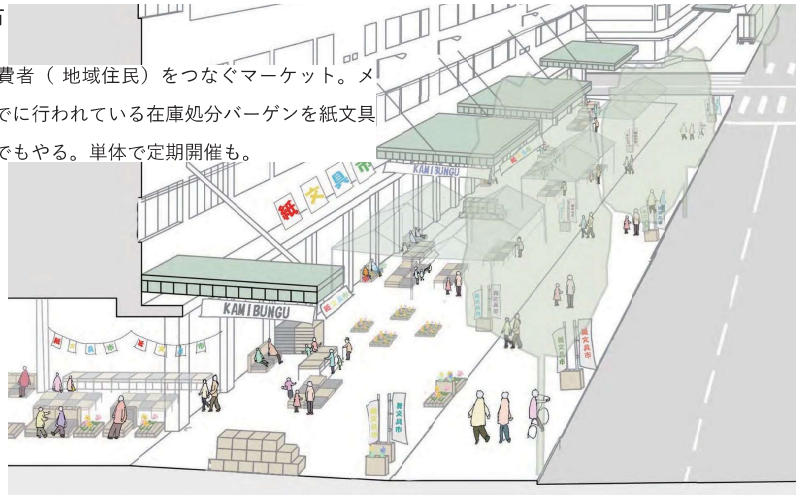
［提案２］市民・クリエイターが訪れるまちに

メルカート市のように市民が街を訪れるきっかけとなるマーケットイベントを紙文具流通センターも合同開催し、それを社会実験の機会にも位置づけることで新たな来街者獲得とそれにともなう街の空間の可能性と問題点を明らかにしていく。二つの卸売組合と隣接する商業施設、さらには行政などが協働するきっかけにもなると期待している。



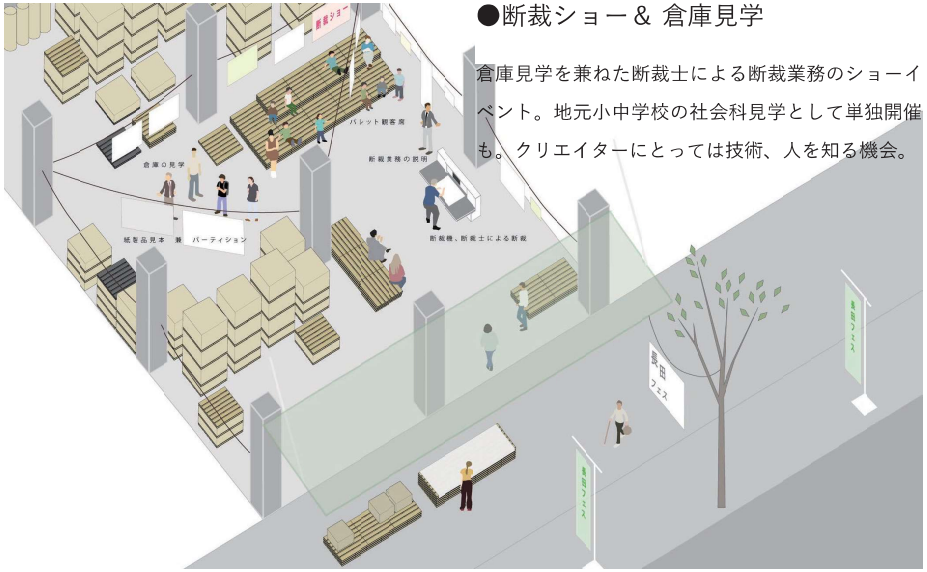
●紙文具市

卸業と一般消費者（ 地域住民）をつなぐマーケット。メルカートですでに行われている在庫処分バーゲンを紙文具流通センターでもやる。単体で定期開催も。



●断裁ショー＆ 倉庫見学

倉庫見学を兼ねた断裁士による断裁業務のショーイベント。地元小中学校の社会科見学として単独開催も。クリエイターにとっては技術、人を知る機会。



●紙文具図工室（ＷＳ）

取扱商材（ 子ども向け文具・玩具)、倉庫を利用した教育的ワークショップ。長田独自の教育プログラムとしてクリエイティブ企業と連携、定着。



2-2　荒本

荒本地区は、大阪市役所、大阪府立図書館、ものづくりのための公共施設、府営団地が集積し、またモノレールの新駅が建設される東大阪の最も重要な都市機能誘導区域である。大阪府の東西を横断するけいはんな線沿線の利便性の高い地域であり、同時に機械卸団地、泉北交通トラックターミナルが隣接する大阪府内でも有数の流通拠点でもあり、当然幹線道路も域内を貫通する。駅を中心としたウォーカブルなコンパクトシティを目指すことに加えて、ロードサイド型の施設を車で利用するユーザー、域内の流通業で働くワーカーも含めたこの地区ならではの中心地をつくる必要がある。歩行者の安全を確保しつつ域内外の交流を促し、地域を魅力的にする施設をノードとネットワークによって計画・提案する。

担当：松岡 聡

［リサーチ１］物流と東大阪市

［リサーチ２］荒本のスモールプレイス

［リサーチ３］大阪府内の主要幹線道路

［提案 ］ウラから始める都市設計手法

［リサーチ2］荒本のスモールプレイス

●荒本におけるスモールプレイス

大阪中央環状線と阪神高速道路の交差位置にあり、機械団地が広がっている。一般的な目線でプレイスやエリアを考える前に、荒本における場所の特性を分けることを、目的として街を観察した。
荒本に見られるひらけたプレイスになりうる外部空間をオープンスペースと名付けた。
オープンスペースを街から発見し、分類する。



●スモールエリアの観察方法

・調査をもとにプロット



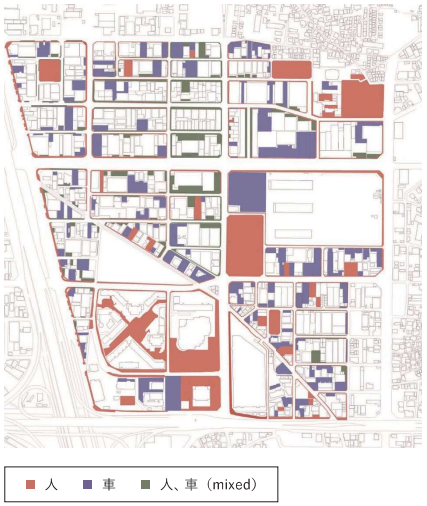
荒本を歩きオープンスペースを写真に撮る　発見したオープンスペースをプロット　特徴を分類して観察する

・主体 / 使用頻度 / 空間 の３つの観点で分析



主体：人、車、mixed　使用頻度：よく使われているか　空間：屋根、壁に囲まれている、柵

●人と車のエリア分布図



・mixed エリア



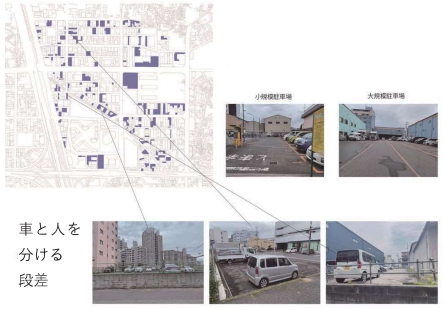
人と車が混合する mixed エリアは主に荒本北側の工場地帯を中心に分布している。またその下部にある住宅地にも人と車が混在するエリアがある。

・人しか入れないエリア



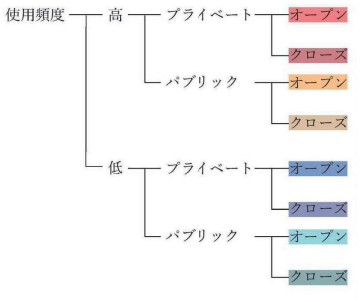
駐車スペースが主である。荒本の駅前以外の全域に分布されていて土地の有効活用で作られた小規模パーキングロットから工場の敷地にまたがる大規模駐車場が存在する。人と車を分ける要素として、地形のレベル差で別れているエリアも存在した。

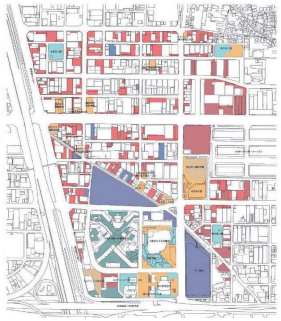
・車のエリア



駅に近い市役所付近には人しか入れないエリアが集中していて、機械団地付近に公園などのエリアが存在する。

●オープンスペースの使用頻度と場の性質

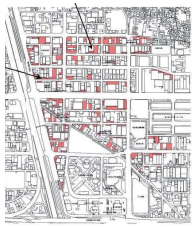




・高 / プライベート / オープン

分布　　：北西の機械団地周辺に特に多く分布。
形状　　：工場に付属するキャノピー・庇空間。
サイズ　：比較的大きなものは少ない。

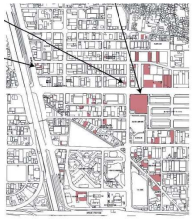




・高 / プライベート / クローズ

分布　　：特に東側に良く見られる。
形状　　：工場前・トラック等の駐車場がフェンス等の遮蔽物で遮られている。
サイズ　：大小は様々。





・高 / パブリック / オープン

分布：市役所周辺に特に多く見られるが工場エリアにも点在している。
形状：開かれたコンビニの駐車場・工場エリアの駐車場・囲いのない公園。
サイズ：比較的大きめのものが多い。






・高 / パブリック / クローズ

形状：フェンスや場で遮られた公共のオープンスペース。
サイズ：比較的大きい。





・低 / プライベート / オープン

形状：周りに何もない持ち主不明の畑。サイズ：大き目のものが多い。

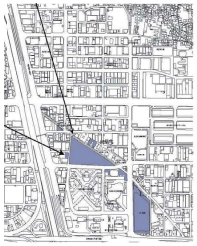




・低 / プライベート / クローズ

分布：南側に分布。斜めの道路に沿って分布。
形状：工場に付属するキャノピー・庇空間。サイズ：大小様々。

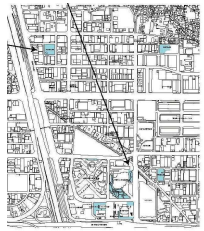




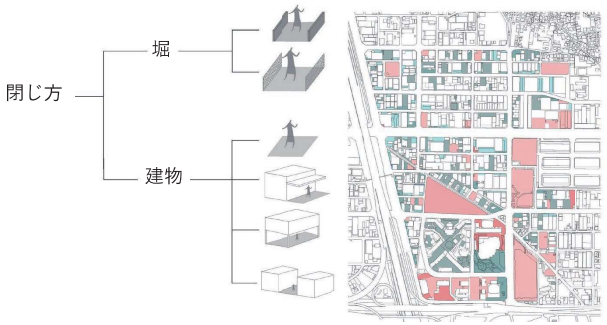
・低 / パブリック / オープン

分布：市役所周辺に特に多い。
形状：人のために作られたが使われていないオープンスペース。サイズ：大小様々。

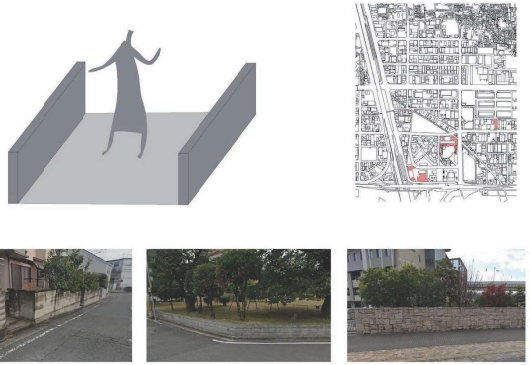




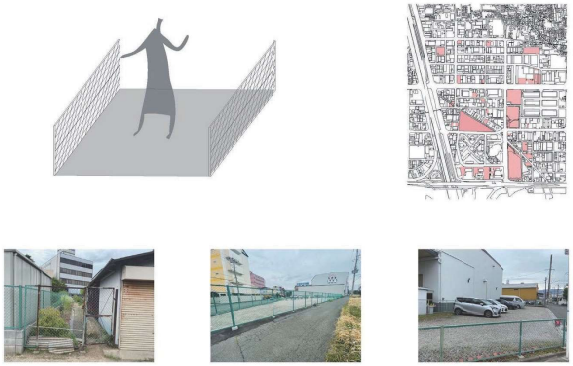
●オープンスペースの閉じ方



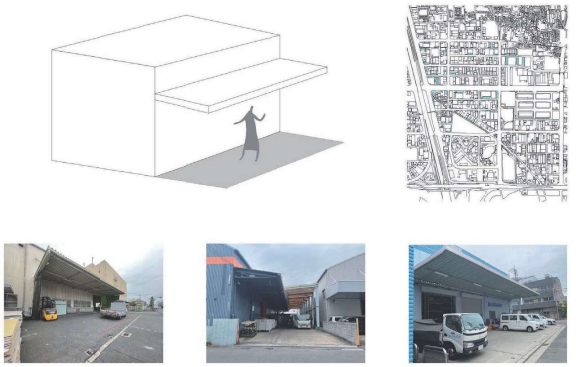
・塀



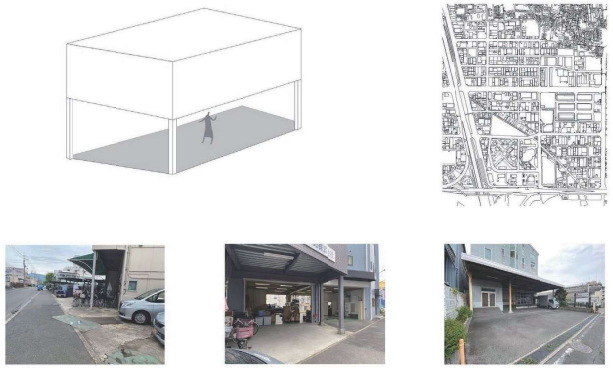
・フェンス



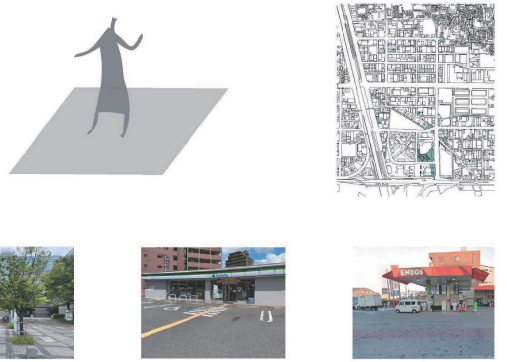
・キャノピー



・ピロティ

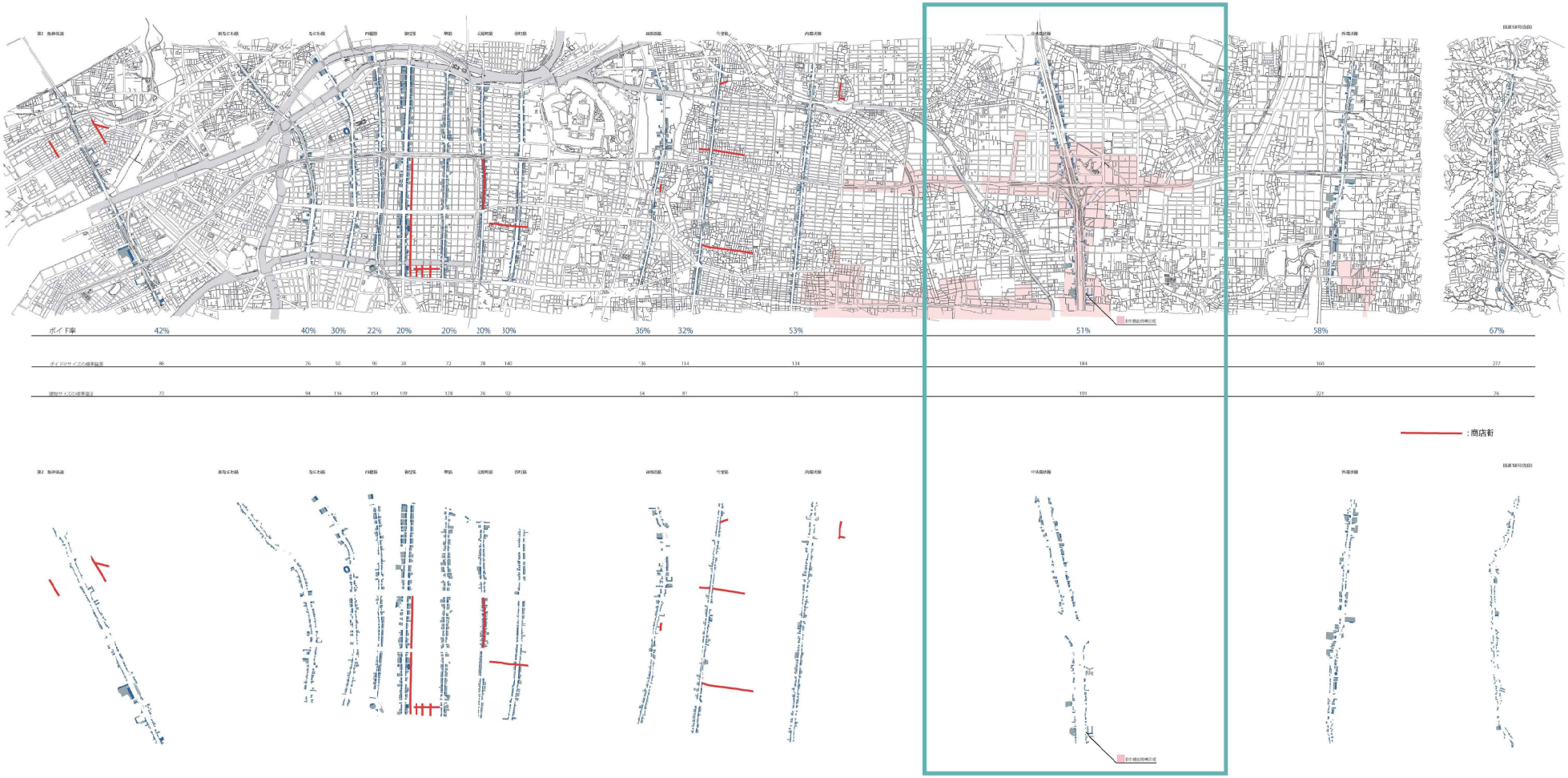


・開けた空間



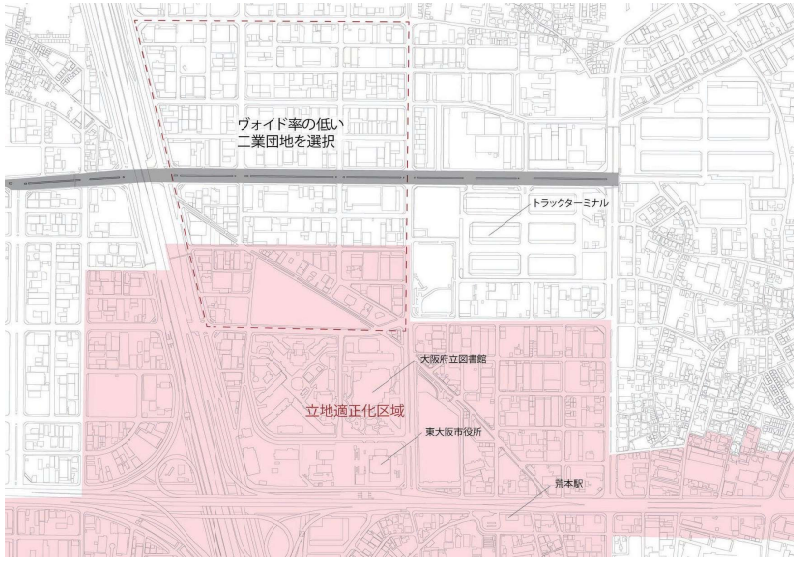
［リサーチ３］大阪府内の主要幹線道路

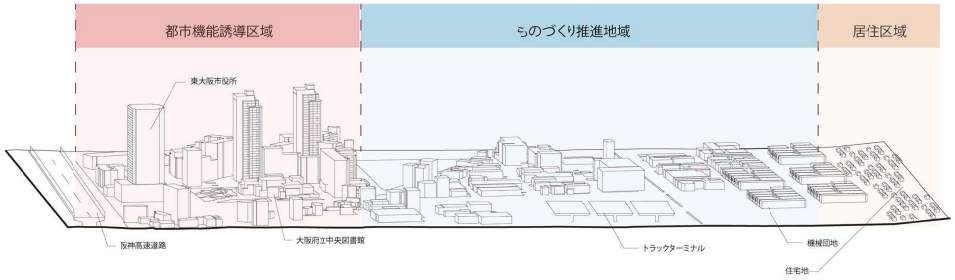
主要幹線道路に着目し、立地適正化計画が行われている地域を含んだ、大阪府を東西に横断する阪奈都市軸に直行する主要幹線道路を建物の大きさが比較できる建物とオープンスペースを白黒で塗り分けたマップとする。都市機能誘導区域は赤色の範囲で示す。さらに建物のエントランスの方向に色付けを行う。御堂筋などの道に対してエントランスが向くものと中央環状線道路のような、バラバラな向きにエントランスが向くようなアプローチに大きく二分できる。建物とヴォイドの割合と周辺環境をプロットすると、建物の向きとそれぞれ関係があり、御堂筋付近のヴォイド率が低い場所ほど、間口が道に対して垂直にとられ、その背後の街区に商店街が幹線道路にそって存在していることがわかる。このことから幹線道路沿いのヴォイド率の低い地域は幹線道路を地域の骨格とした街並みが形成されていることが読み取れる。



●対象エリアと立地適正化区域の関係

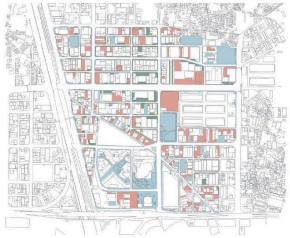
中央環状線道路沿いの荒本という地域は、交通インフラとともに都市が整備されてきた。戦時中に建てられた飛行場跡地に今の中央環状線が通り、その後、集合住宅団地が建設されて阪神高速道路の建設、機械団地が整備された。1980 年には道路がジャンクション化され、地下鉄、市役所や図書館といった都市機能が整備されていきました。こうして荒本では交通インフラの整備とともにまちづくりが断片的に行われたことでコア（都市機能誘導区域）とそうでない場所に明確な都市ヴォリュームの差が生まれている。ジャンクション化された都市の骨格を成す道路は地域生活やウォーカブルな中心地を形成するには適切とは言えず、ヴォイド率の低い荒本の流通業務エリアやロードサイド型の店舗、道路の性質も生かした計画を行う。

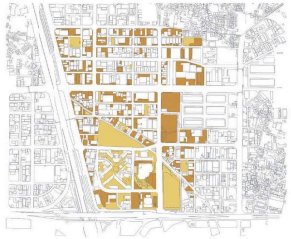


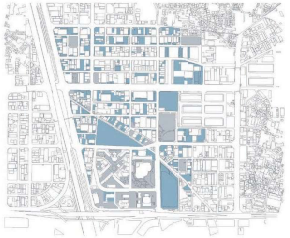


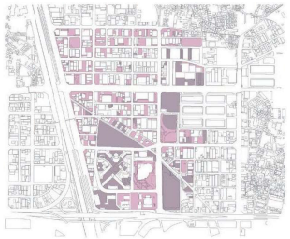
●オープンスペースの分布

荒本に地域の現状を生かした計画を行うため、ヴォイド率の低い範囲を対象にオープンスペースのリサーチを行った。街を歩いてフィールドワークを行い、いくつかの項目、レイヤに分けてアーカイブを行った。①使用頻度、②場所を使用する主体、③空間の閉じられ具合、④軒の高さと道路から建物までの距離についてアーカイブした。


人、車、Mixed


使用頻度


プライベート、パブリック


オープン、クローズ


閉じられ方

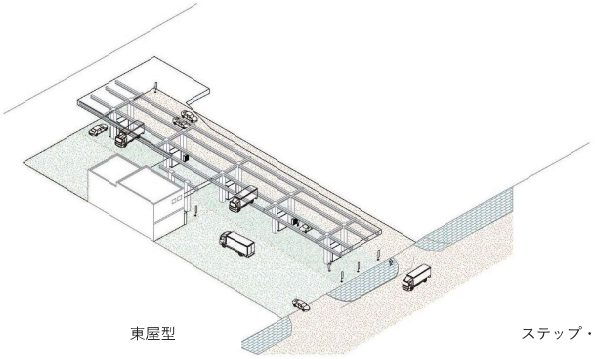

道路から建物までの距離


軒高、オブジェクト点プロット

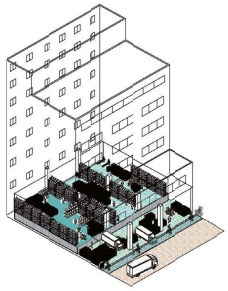
［提案］ウラから始める都市設計手法

●建物のタイポロジー

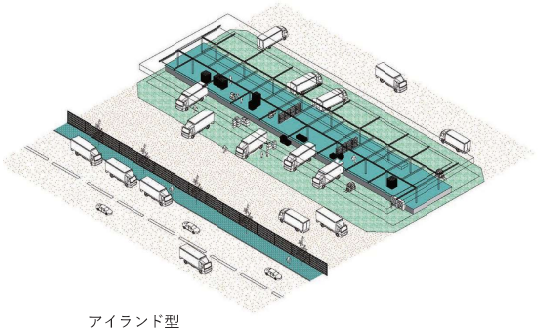
また、荒本の対象地域にある建物のタイプ（建築のタイポロジー）をアイソメに起こした。地域の景観を形成する代表的な 11 種類に分類し、歩車で色分けをし、車だけが使っているような場所はオレンジ、人だけが使っている場所は青、車が止まっているところを人が歩いているような、歩車の距離が近いゾーンを緑色に着色した。建物の形態によって色の分布が異なっていることがわかる。歩車に関わる建物の建築のタイプ、空間のボキャブラリーを荒本から収集し、分類した。階段や低い軒は人だけの場所を形成するために用いられており、人と車が共存するような場所はトラックが入るような高い軒、キャノピーがある場合が多いことが明らかになった。



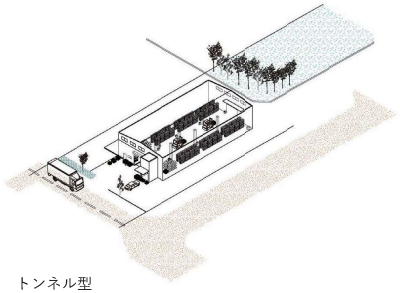
東屋型



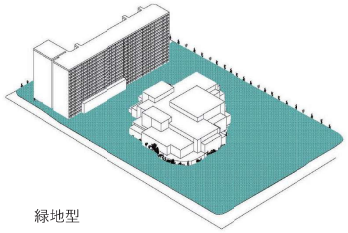
ステップ・アンド・ピロティ型



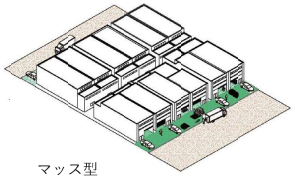
アイランド型



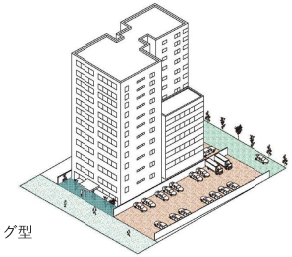
トンネル型



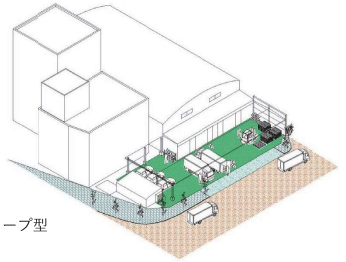
緑地型



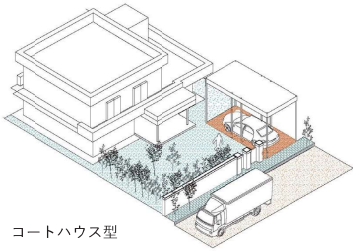
マッス型



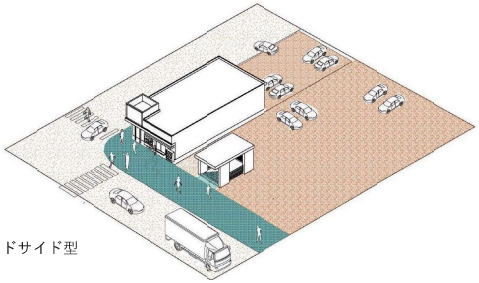
サイドパーキング型



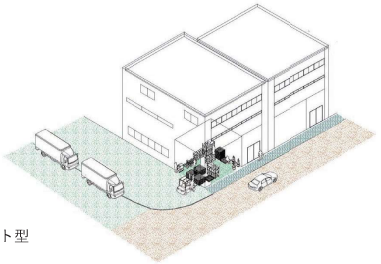
スロープ型



コートハウス型



ロードサイド型

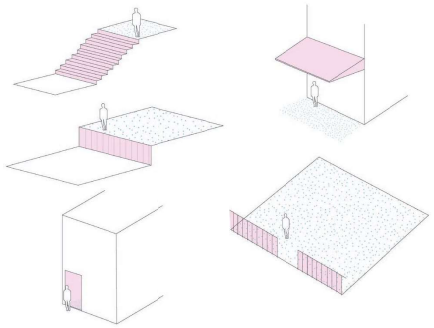


ショートカット型

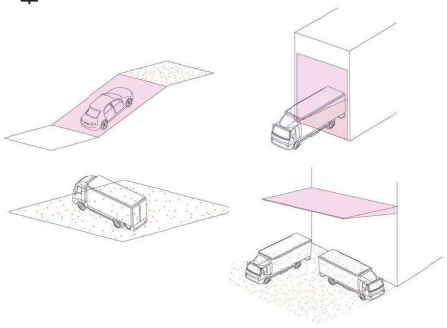
これらの分類を元に荒本エリアを、場を使用する主体について再構築する手法を「かた」の設計として提案する。「かた」の設計とは地域のあらゆる場所に適用、または応用が可能なプロトタイプとしての汎用性をもつ設計案として提示するものである。車が通れる場所と人が集まって使える場所、車と人が共存するような場所を安全のために分離したり、視線や利用において連続させることで荒本のあたらしいまちづくりの提案をする。

●歩車の関係性による分類

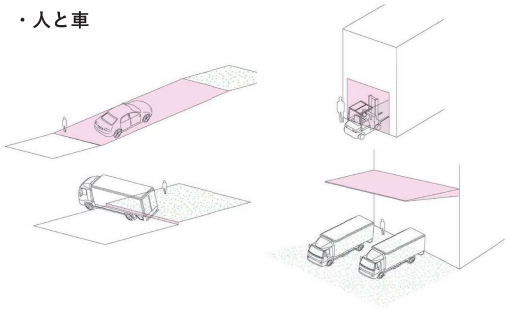
・人



・車

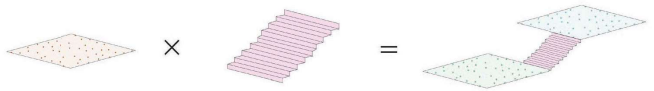


・人と車



●かたの設計

人の通り道のあるガソリンスタンド



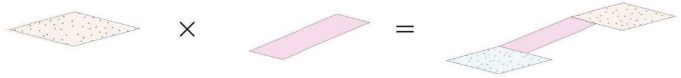
地域住民の協働を生むお弁当屋さん



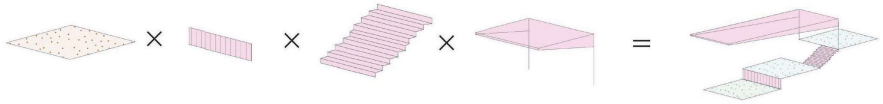
車によるイベントが可能になった公園



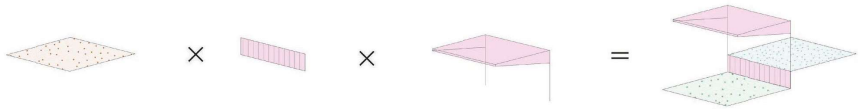
駐車場の下に広がる人の溜まり場



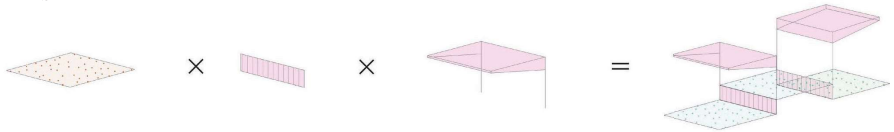
食物資と人が集うシェアキッチン



トラックによる荷卸と人の場が共存するキャノピー下

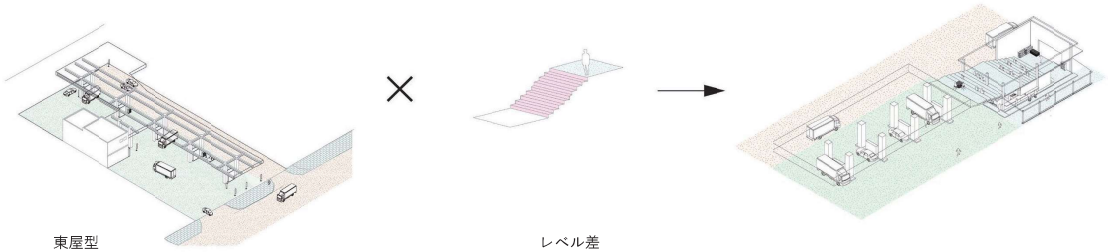


荷下ろし場のあるマルシェ



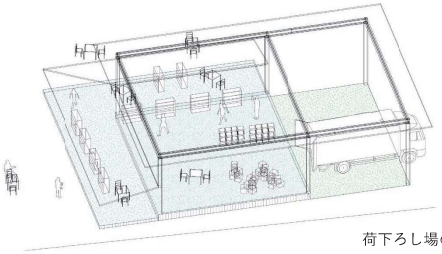
例としてガソリンスタンドにレベル差をつけることで人のための場所の計画など、「かた」の設計をもちいて 8 種類の新しい荒本の建物と地域の適用例を設計した。

●かたの適用法

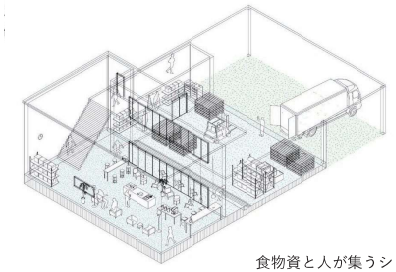


東屋型　　レベル差

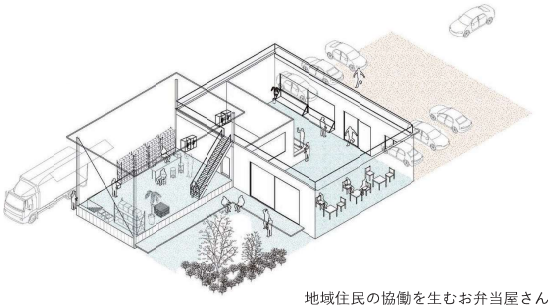
●設計物の事例



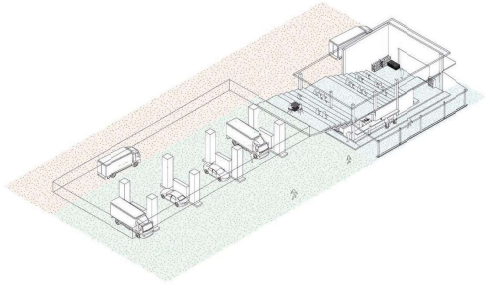
荒下ろし場のあるマルシェ
ステップ & ピロティ × 庇



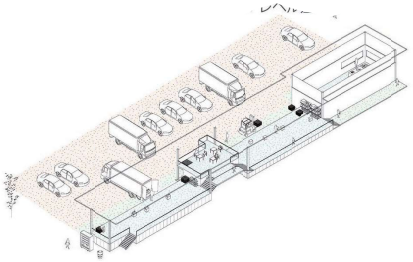
食物資と人が集うシェアキッチン
ステップ & ピロティ × 階段



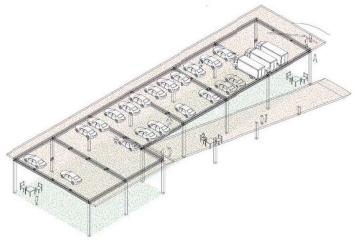
地域住民の協働を生むお弁当屋さん
コートハウス × レベル差



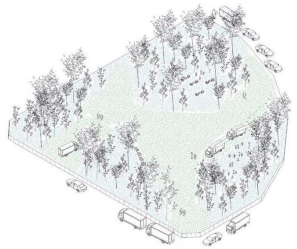
人の通り道があるガソリンスタンド
東屋型 × 階段



トラックによる荒下ろしと人の場が共存するキャノピー
サイドーパーキング × キャノピー × レベル差



駐車場の下に広がる人のたまり場
歩道確保型 × スロープ



車によるイベントが可能になった公園
緑地 × レベル差

●設計物の詳細

適用例として３つ紹介する。

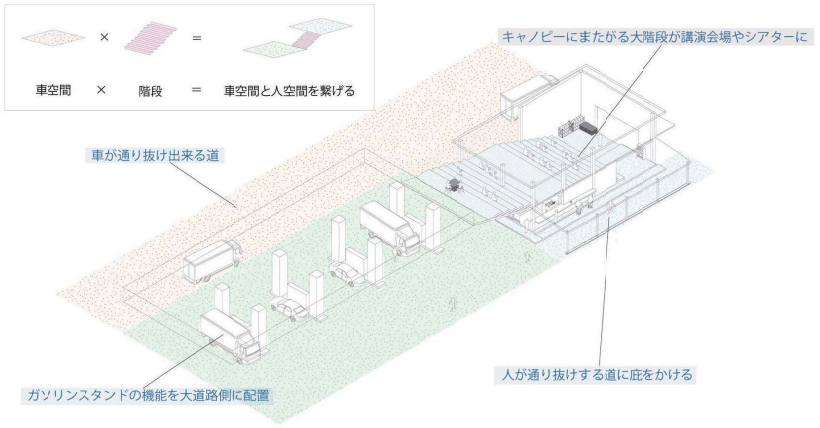
１．荷下ろし場のあるマルシェの計画。平地の車のみが駐車されていたオープンスペースに全面道路との関係から人だけの居場所とトラックと人が共存するような場所のゾーニングを行い、居場所を分けるためレベル差や階高の異なる軒を変数として設計していく。トラックと人のスケールの違いが軒下空間に現れ、人にとって階高の高く開放的な荷下ろし空間と軒の低いマルシェが連続するような空間を計画することを意識した。

２．エントランスの裏側に大きな駐車場がある弁当屋に対して駐車場の一部に段差をつけ、荷下ろし場を計画し。地域の住人が集まってトラックターミナルからくる食材等の荷下ろしをして、お弁当を卸団地で働いている人に販売できる建築が計画した。

３．ガソリンスタンドがあった場所の裏側に地域の住民や、中央環状線道路を利用する外部の人が集まれるようなイベント広場を計画した。主要幹線道路のひとつ奥の工場や倉庫の裏になっている道路に対して、人の集まれる場の計画を提案した。

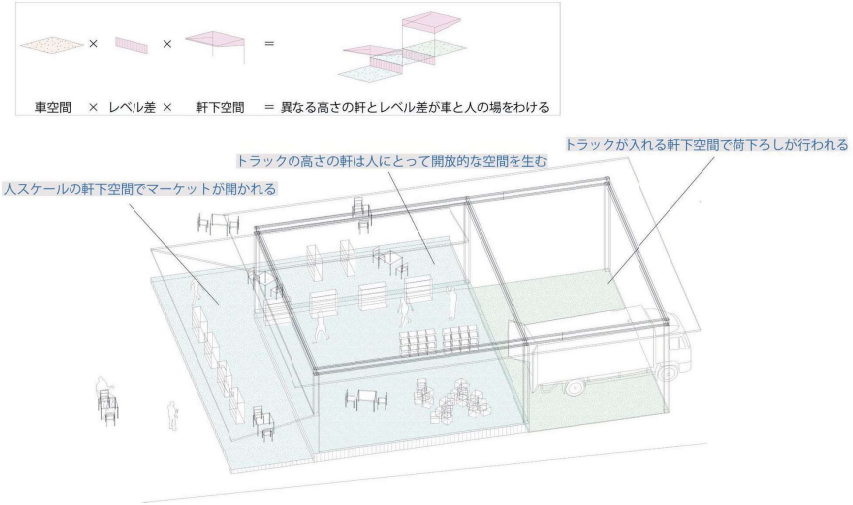
・東屋×階段　一人の通り道があるガソリンスタンド

庇と段差を作ることで人が通り抜けできる空間を作る。向かいの道路側にある大階段では、住宅街から離れた郊外だからこそ映画上映や講演会が行うことが出来る。



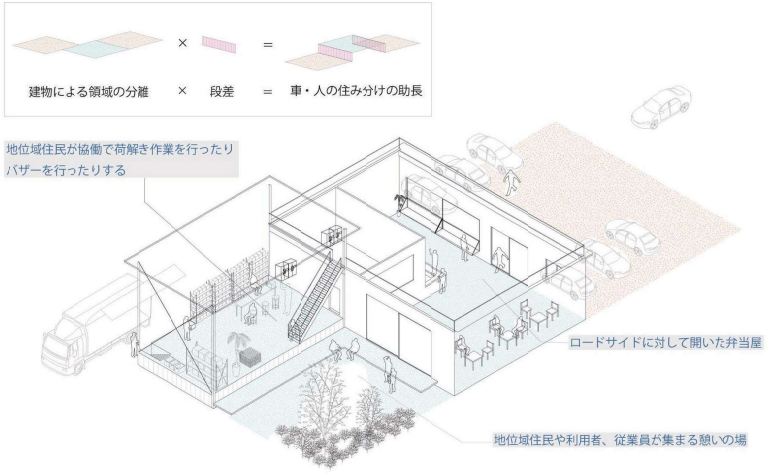
・ステップ＆ピロティ×庇　荷下ろし場のあるマルシェ

トラックの高さの軒下区間ではトラックが入り、床レベルの上がった空間では荷下ろしが行われる。人スケールの軒下空間ではマーケットが行われ人のための空間となる。



・コートハウス×レベル差　地域住民の協働を生むお弁当屋さん

敷地の前後に開いた弁当屋である。通常、荷下ろしや荷解きなどの弁当屋の裏仕事は住人や利用者の目につくことがない。弁当屋の裏側に裏仕事用の空間を開放し、ここでは従業員と地域住民が協働したり、バザーが行われたりする。



3 「にぎわいゾーン」への提案

3-1　布施

3-2　河内小阪

3-3　瓜生堂

3-1　布施

布施駅周辺から河内永和駅周辺にかけて、現状のまちの使われ方について現地調査を行った。その中から、かつての布施市の中心地としての大きな商店街があり、乗降客数も近鉄線沿線屈指という大きなポテンシャルを持っているにもかかわらず、公共空間の賑わいにかける布施駅周辺に焦点を絞った。布施駅周辺は合併により東大阪市ができた後も市役所が置かれ業務地、商業地、住宅地として栄えてきた。現在は、駅の状況客数は多いものの、市役所が荒本に移動し、かつての活気がなくなっている。ビジネスマンの数が減り、商店街の顧客層が変化しつつ減少している状況である。また、活性化を狙った駅前再開発でできた商業施設と駅前ロータリーも活気があるとは言えない状態になっている。

今回は駅前ロータリーと道路空間、商店街のアーケード空間という大きな公共空間の可能性に着目し、未来像を構想した。提案の方向性としては歩行者中心で滞留したくなる空間を作ることを目指した。北口駅前ロータリーは人のための広場（布施スクエアパーク）とし、新しい布施の顔となる空間を目指した。芝生や水景のある広場に小さな商業施設を配している。広場は再開発ビルの前庭として、イベントなども行える想定としている。駅の南側にある路上駐車の目立つ幅員の広い道である一条通りを広場化（一条広場）し、商店街への入り口を人々の居場所として提案した。さらに、北口の布施スクエアパークと南口の一条広場を結ぶ交差点をスクランブル交差点として連結することで、駅周辺に賑わいの風景を作り出そうとしている。商店街は１番街から４番街にかけてを駅からの距離に応じて５つに性格分けし、それぞれの主たる来訪者を想定してアーケード空間の使い方と仕掛けを提案している。アーケードには自転車での来訪者向けの駐輪スペースと人々の滞留スペースを設け、既存店舗の活動の助けになると同時に、人の気配が常にある光景とすることで空き店舗の活用を促進する効果を狙っている。

担当：宮部 浩幸

［リサーチ１］布施の基本情報

［リサーチ２］駅周辺

［リサーチ３］商店街

［リサーチ４］その他（住宅エリア・高架下・南北大通り・学校周辺エリア）

［提案の全体像］駅周辺エリア　全体イメージ

［提案１］駅周辺エリア「布施スクエアパーク」（駅北側ロータリー）

［提案２］駅周辺エリア「布施トライアングルパーク」（駅南側道路）

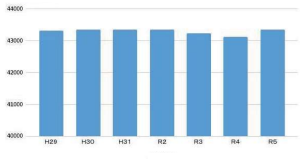
［提案３］商店街エリア「人が常にいる商店街」（ブランドーリふせ）

［リサーチ１］布施の基本情報

人口は約４．５万人おり、大阪市内のベッドタウンである。２０～３９歳の若年層が多い。駅を中心とする複数の商店街が存在している。

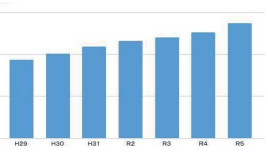
●人口推移

人口総数	（人）
H２９	43,325
H３０	43,357
H３１	43,349
R２	43,351
R３	43,236
R４	43,118
R５	43,359



人口総数

世帯数	（世帯）
H２９	23,751
H３０	24,031
H３１	24,371
R２	24,643
R３	24,809
R４	25,058
R５	25,490



世帯数

●布施の昔のすがた



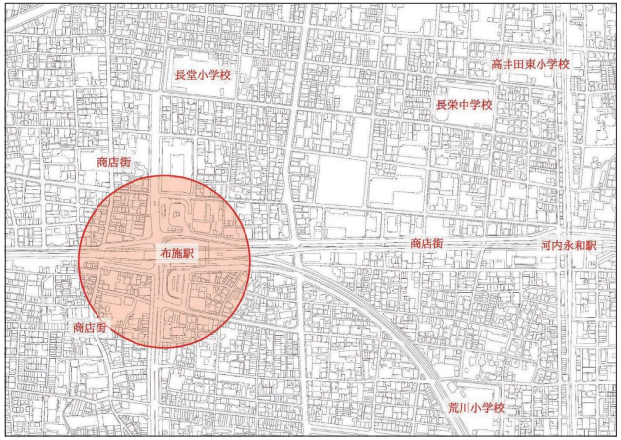


●東大阪市の企業

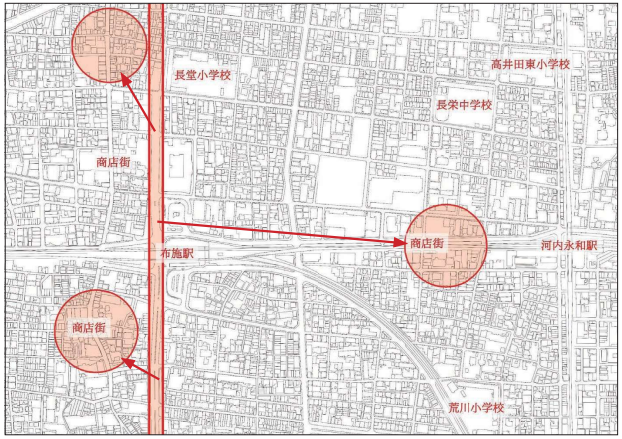
「ヤッターメン」などの駄菓子を製造するジャック製菓、ハウス食品の大阪本社に加え、元禄寿司の本店が布施本街商店街内に所在している。

●注目すべき３つのスモールエリア

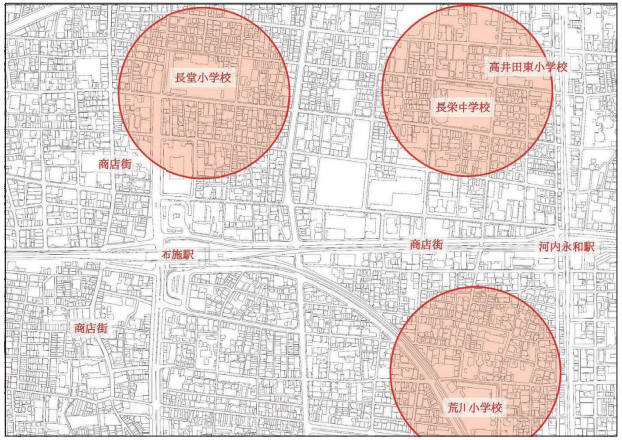
・駅周辺エリア



・商店街および南北大通り



・学校周辺エリア



［リサーチ２］駅周辺

●概要

・交通結束点としての利便性

–近鉄大阪線　–近鉄奈良線　–近鉄バス

–大阪シティバス　–タクシー

・近鉄布施駅の乗降者数が多い

34,546 人 / 日　調査日 令和 4 年 11 月 8 日（火）

近鉄大阪線 3 位(48 駅中) 近鉄奈良線 5 位(19 駅中)



●駅前の問題

駅南側道路は路上駐車が問題になっている。駅北側ロータリーがあり、地下駐車場もあるため魅力的な計画になっていない。



地下駐車場入り口



駅構内のゲームセンター



多すぎる路上駐車

●駅から商店街への人の流れ



- 布施駅周辺は基本的に布施駅を出入りする人が多い
- 布施駅から商店街までの人流が多い
- 商店街利用者の大半は地域の人→滞留的
- ポッポアベニューの大半は駅利用者→流動的

●アクティビティ



食べる



飲む



待ち合わせる



買い物をする



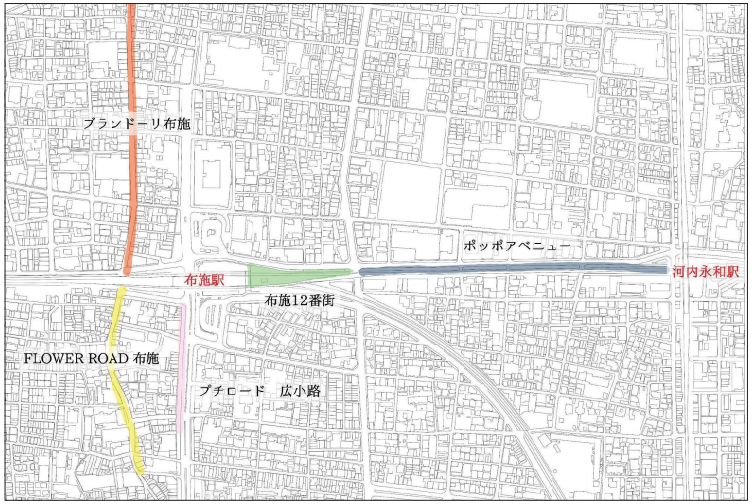
歩く



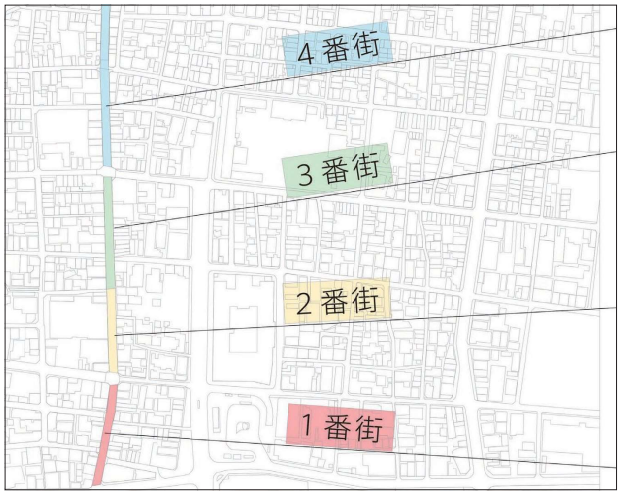
ゲームをする

［リサーチ３］ 商店街

●布施駅周辺の商店街



●ブランドーリふせ性質分け









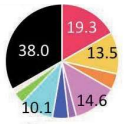


●商店街ごとの店舗数と業種

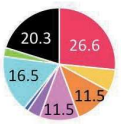
ふせ 12 番街（20 店舗）



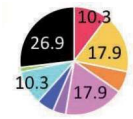
FLOWER ROAD ほんまち（78 店舗）



ポップアベニュー（79 店舗）



ブランドーリふせ（114 店舗 南 85/ 北 59）



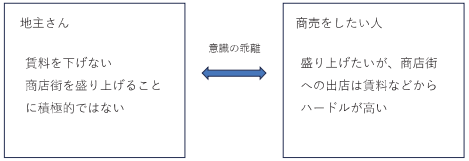
プチロード広小路（37 店舗）





●現状の課題

- 商店街の空き店舗増加
- 人が気軽に居れる場所が少ない（駐輪場化する空き店舗前）
- 賃借人と商売人のギャップ



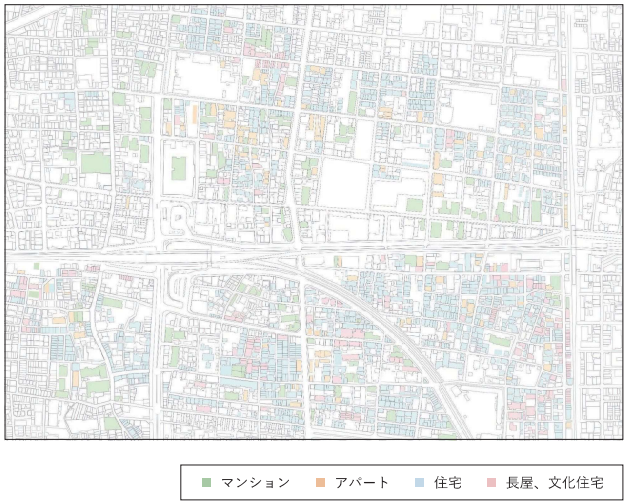


人が入りたいと思えない空きテナント

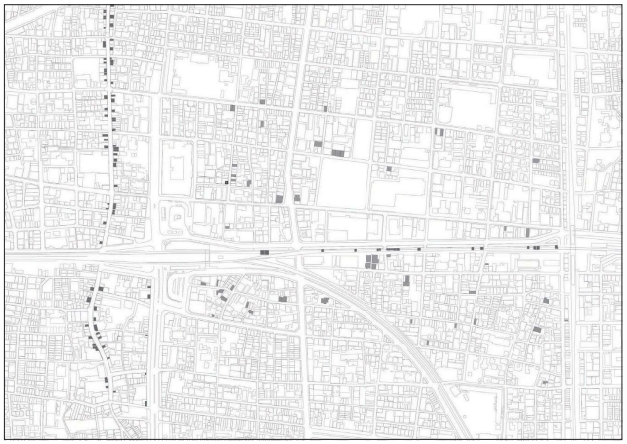
［リサーチ４］その他（住宅エリア・高架下・南北大通り・学校周辺エリア）

●住宅エリア

・タイプ別の住宅の分布



・空き家の分布



・駐輪場と駐車場の分布



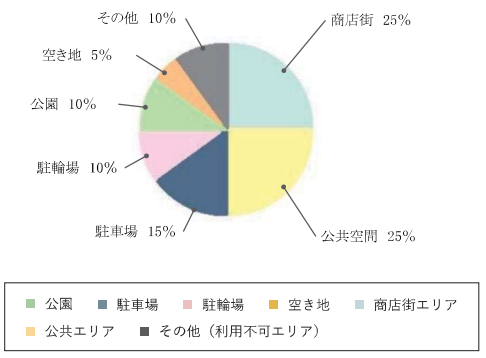
●高架下

・鉄道の路線



・利用状況

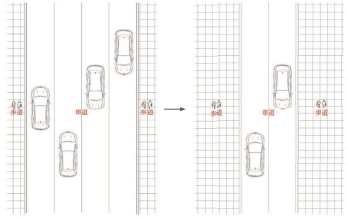




●南北大通りエリア

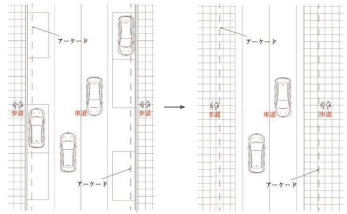
・現行の道路状況と拡幅案

布施駅北道路

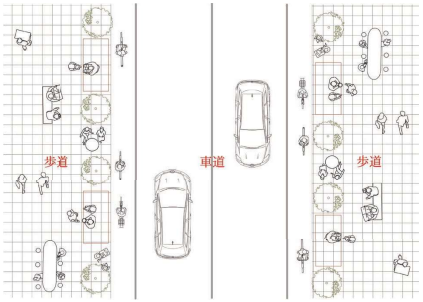


歩道＋4車線　　2車線にして歩道を拡幅

布施駅南道路



歩道＋駐停車道路＋道路　　駐停車道路を歩道にする



拡幅した歩道で実験的、暫定的にポップアップストアを開く







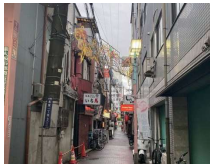
・エリアのアクティビティ



食べる



買い物をする



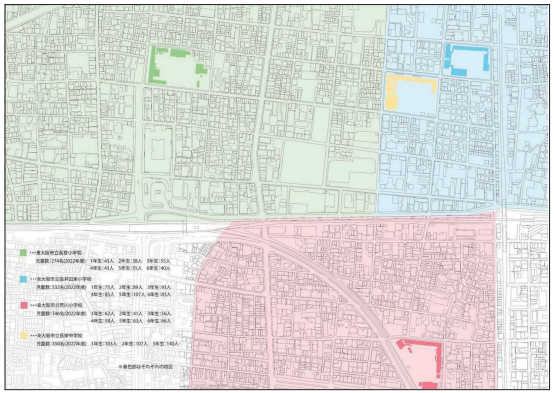
飲む

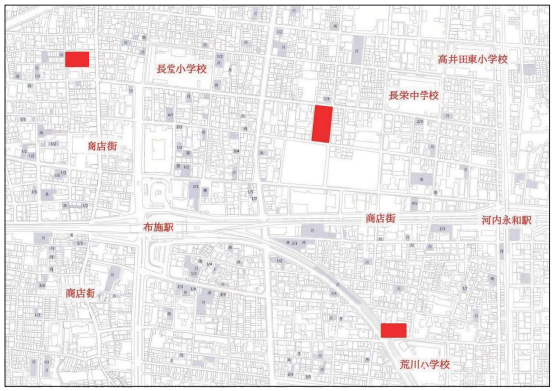


自転車をとめる

●学校周辺エリア

・周辺の小中学校と公園











・エリアのアクティビティ



スポーツをする



読書をする



通学する



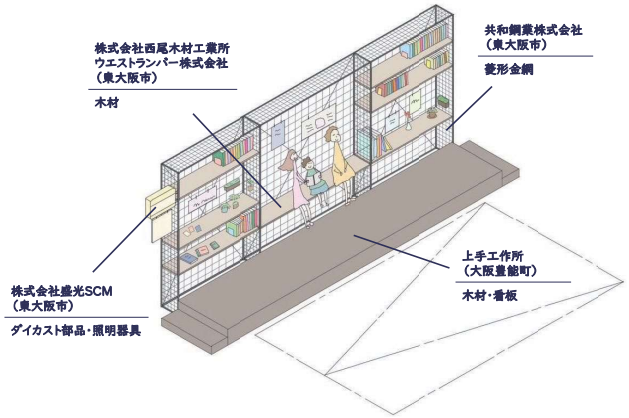
学ぶ

［提案３］商店街エリア「人が常にいる商店街」（ブランドーリふせ）

● STEP1　商店街に人を集める

・家具づくりイベント

商店街内で使用する家具を製作するイベント。材料は布施周辺、東大阪市と関係のある工場から収集。子ども・親を対象とし商店街に対する愛着を育てる。



・Takeout イベント

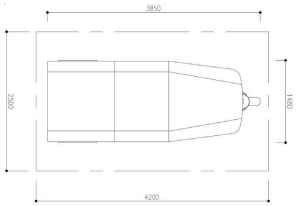
フードコートのように気軽に飲食ができるイベント。商店街に来るきっかけをつくる。商店街に置いた家具を認知してもらう・使ってもらう。商店街に入っている飲食店に協力してもらう。

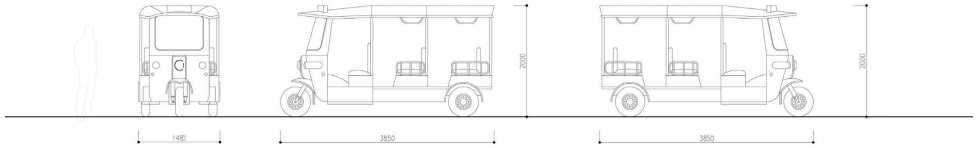


● STEP2　人が滞留できる場をつくる

・トゥクトゥクの運行

商店街内で使用する家具を製作するイベント。材料は布施周辺、東大阪市と関係のある工場から収集。子ども・親を対象とし商店街に対する愛着を育てる。

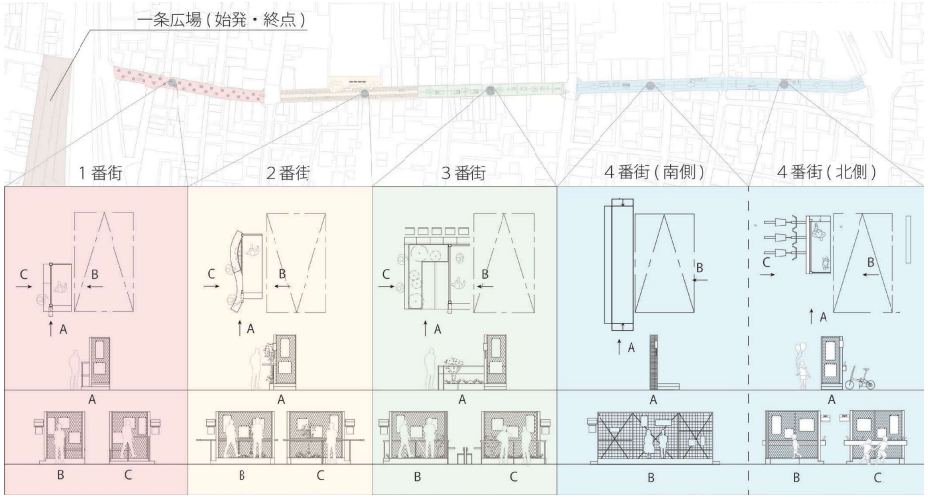




トゥクトゥク寸法

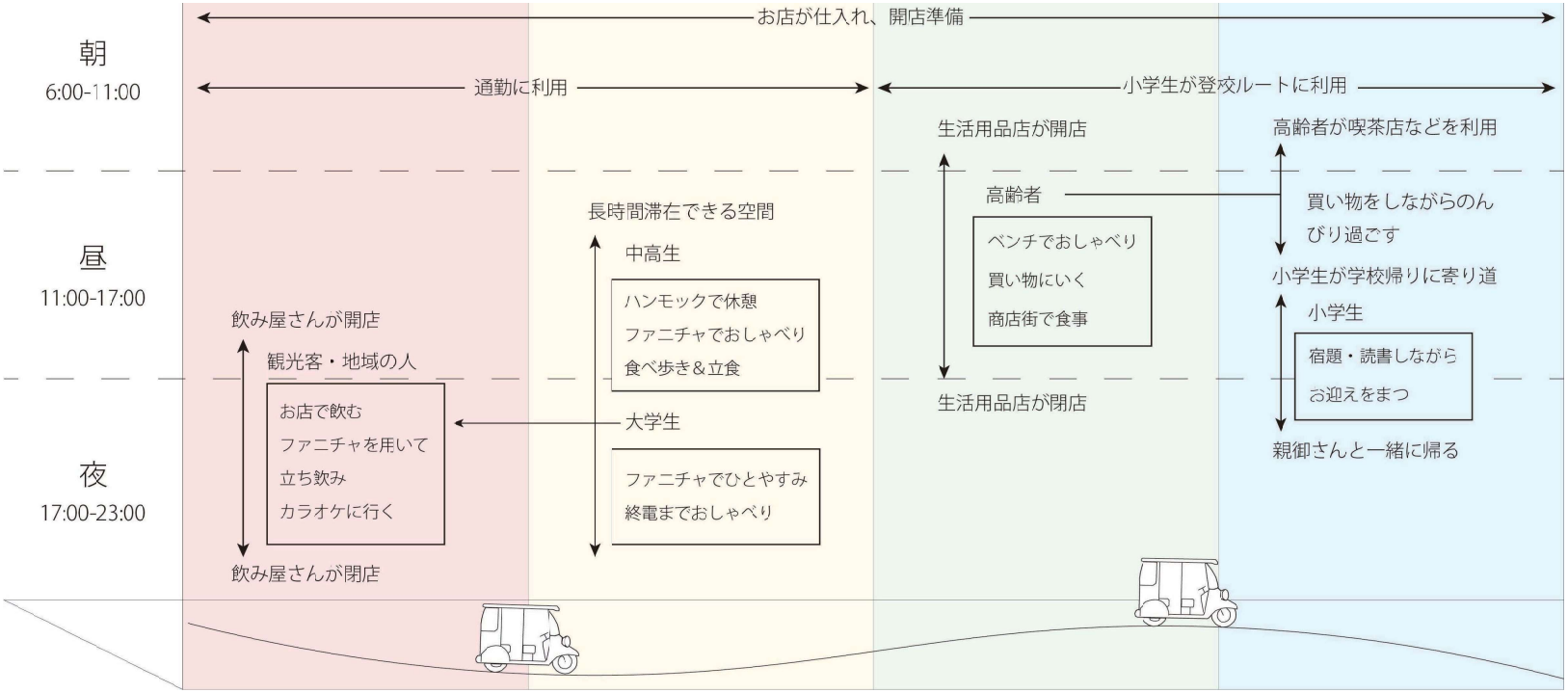
・商店街全体の空間づくり

トゥクトゥクを用いた一連の動線づくりと、停留所をつくって全体の統一感づくりを行う。



停留所配置図

●時間帯とエリアごとの人々の活動フロー



●段階計画

STEP1：商店街に人を集める（家具づくりイベント・Takeout イベント）

STEP2：人が滞留できる場をつくる（ブランドーリふせの空間づくり・トゥクトゥクの運行）

STEP3：空き店舗が埋まる

STEP4：商店街に人が集まりにぎわいをとりもどす

3-2　河内小阪

近鉄河内小阪駅の北側と南側では様相が大きく異なり、北側は近鉄による大規模な再開発がこれからはじまろうとしており、南側は昔ながらの商店街が２本営業を続けているが、活気があるとは言えない状況にある。その一方で北側には大阪商業大学、南側には大阪樟蔭女子大学があるとの共通点から、それぞれのステークホルダーと大学生が協働してこれからのまちづくりを考えられるビジョンを描いた。また河内小阪駅は、司馬遼太郎記念館の最寄駅ともなっている。
南側は商店街のアーケード下空間や空き店舗、公園や都市計画道路の未利用地など、点在するオープンスペースを司馬遼太郎が好んだという菜の花ストリートでつなぎ、一体的な領域性と回遊性を生み出そうとした。北側の再開発用地については、学生や地域住民の動線を組み込んで居場所を設け、その運営に自ら参画することで街の主体としての意識を育むことを目指している。また、有効に活用されているとはいえない近鉄の高架下空間についても、自転車道の設置などの提案をおこなった。

担当：髙岡 伸一

［リサーチ］河内小阪の現況

［提案の全体像］河内小阪全体計画

［提案１］河内小阪南側

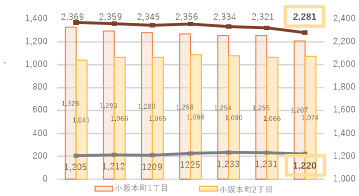
［提案２］河内小阪北側

［提案３］高架下

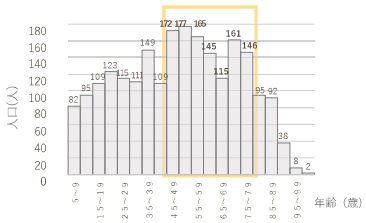
［リサーチ］河内小阪の基本情報

近畿日本鉄道の直系の前身、大阪電気軌道の開通により発展し、大正 14 年、布施と小阪は町制を施行した。 住宅の町として発展してきたことから、徒歩圏内に公園や商店街、病院、銀行が立ち並ぶ。

1913 年　「ハウス食品」の前身「浦上商店」創業
1914 年　大阪電気軌道開通時に小阪駅が開業
1916 年　帝国キネマ小阪撮影所開業
1925 年　町制を施行
1935 年　小阪町営団地住宅完成
1941 年　河内小阪駅に商店街の形成
1949 年　大阪城東大学開学、後の大阪商業大学 大阪樟蔭女子大学、幼稚園・高校
1950 年　八戸ノ里へ車庫が移転
1961 - 69 年　小阪駅前近鉄ビル第 1 ～ 5、日本住宅公団完成
1974 -78 年　駅の周囲にダイエー、ジャスコが開業
1979 -84 年　小阪本通商店街あたり銀行、株式会社が増える

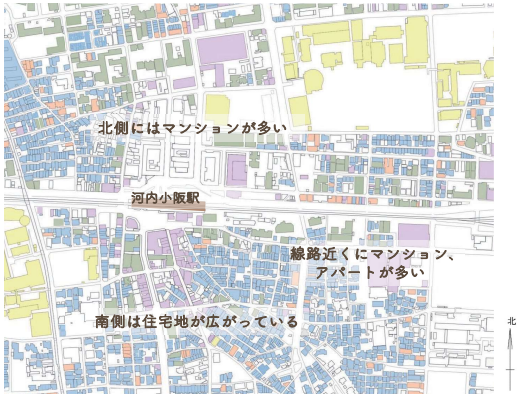


河内小阪人口推移 (2017-2023)



河内小阪 年齢別人口 (計 2281 人)2023/3/31 時点
（※河内小阪：小阪本町 1 丁目、小阪本町 2 丁目 4）

●住宅のタイプ別分布



・北側

新築でマンションが多く、学生や若年層の家族がメイン。

・南側

戸建て住宅が多く、高齢者や土地に愛着がある人が多い。

●司馬遼太郎と菜の花

司馬遼太郎が暮らしていた東大阪司馬遼太郎記念館のある河内小阪。司馬さんが野に咲く菜の花が好きだったこと、小説「菜の花の沖」にちなんで、命日の 2 月 12 日は「菜の花忌」と命名されている。2002 年 命日前後に菜の花の切り花を飾り始め、2004 年「春一番に菜の花忌の会」が発足 2023 年 . 自治会、学校、郵便局など 42 団体が参加し、近鉄・河内小阪駅、八戸ノ里駅から同館までの道筋や学校、公園など約 1650 個のプランターを設置し、明るく黄色い菜の花が街を彩った。







●河内小阪駅周辺のスポット


小阪メルティ街


改札前広場


再開発エリア


大阪商業大学


サンロード




サザンモール小阪


公民館


中小阪公園


公園



●河内小阪駅北側エリア

再開発により、新しい河内小阪の顔となるエリア







・周辺の特徴

- 北側駅前

現状は広場の面積が小さく、車やバスなどの交通が中心の空間

- 大阪商業大学の存在

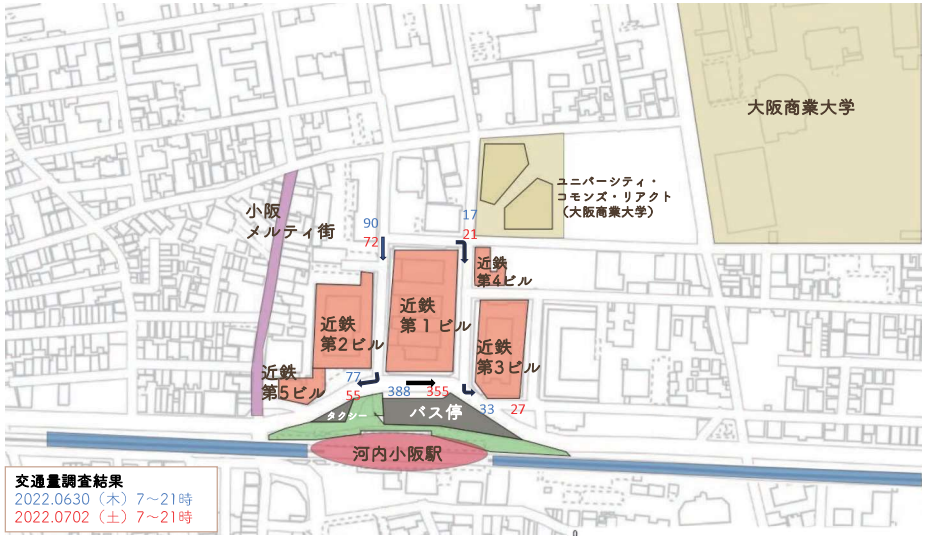
学生数は約 4500 人→通学時間は、駅から大学に向かって混雑

2017 年に学生と地域住民の憩いの場として新キャンパスが誕生し、地域交流に積極的。大学内に食堂は 2 か所、合わせて約 600 席→学生数に対してやや少ない。

- 小阪メルティ街と住人の暮らし

サロンや子供の教室など、比較的長時間滞在するアクティビティ

・交通量の調査



●高架下

・現状

フェンスで囲われており、入ることができない。駐輪場になっている場所が多い。店舗が入っている場所があるが駅付近のみ。



- 東大阪文化創造館

区間準急が止まる河内小阪駅からすぐ行けることが知られていない。周辺に休憩できるような店舗が少ない。



- 大阪樟蔭女子大学

多くの学生は高架下南側の道路を歩くが歩道が整備されていない。

高架下の駐輪場と住宅などに挟まれて、魅力的な通学路とはいえない。



［提案の全体像］ 河内小阪全体計画

北側では、新しく展開していくこれからの河内小阪と、これまでの河内小阪をつなげていく。南側では、馴染みのある風景はそのままに、人と人のつながりをさらに密着していく。



［提案１］ 河内小阪南側



●なのはなストリート

南側のメイン通りを「なのはなストリート」と名付け、菜の花モチーフのファニチャーの近くに本を置き、河内小阪から司馬遼太郎記念館までの道を明るい黄色で彩り、つなげていく。司馬遼太郎の本も含め、黄色のカバーをかけたシークレットブックでなのはなストリートを巡り、本を手にとる楽しさを感じてもらう。



●大学生によるまちづくり

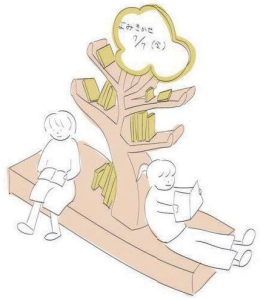
・まちの本棚

月に１回大学生や栗林書房が選書、図書館で除籍された本や古本を置く。通路にはみ出しているものの多さと面白さを活かしその延長に本棚を設置。

主体：商店街振興組合、学生、栗林書店　連携：学芸学部：国文学科：国語・国文学



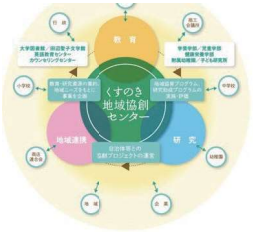
書店内にとどまらず商店街を中心に、通路、公園に展開する





・大阪樟蔭女子大学のくすのき地域協創センター

地域の課題解決や地域活性化を目指し、「やりたいコト」を通じて地域や行政と連携しながら貢献活動を進める活動に大学が支援を行う制度。活動資金の提供、計画・運営面でのアドバイス等のサポートを行う。



○学芸学部：心理学科
ライフプランニング学科ライフデザインコース

○健康栄養学部 & 学芸学部
○学芸学部：化粧ファッション学科

○学芸学部：国文学科：国語・国文学

コミュニティカフェ
まちの保健室

チャレンジショップ

まちの本棚

●小阪本通り商店街

イベントの受付やまちの保健室をもつコミュニティカフェ、チャレンジショップで、小阪本通り商店街の中心であるスカイドームに居場所をつくり、サンロード小阪や飲み屋の多い東西の細い路地へ賑わいを広げる。

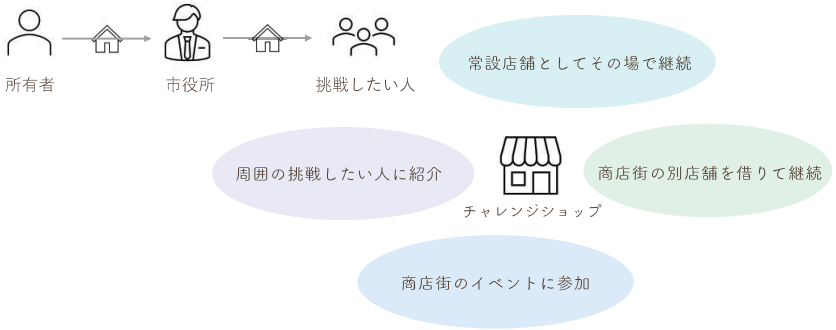


・空き店舗ーチャレンジショップ

長期的なにぎわいの創出を目指し、所有者と挑戦したい人を市役所がつなぐ。

主体：役所、商店街振興組合　事業主：学生、小売業を行いたい人、挑戦したい人、手作り品を売ってみたい人

連携：健康栄養学部 & ライフプランニング学科　学芸学部：化粧ファッション学科



・コミュニティカフェ

現在２階にある商店街商工組合本部を１階に移動させ、気軽に立ち寄ることができるコミュニティカフェを設け、間借りキッチンを併設。定期的にまちの保健室になり、高齢者の健康をケアし、地域のイベントなどの受付も行うなど地域の人にとって日常の居場所となることを目指す。

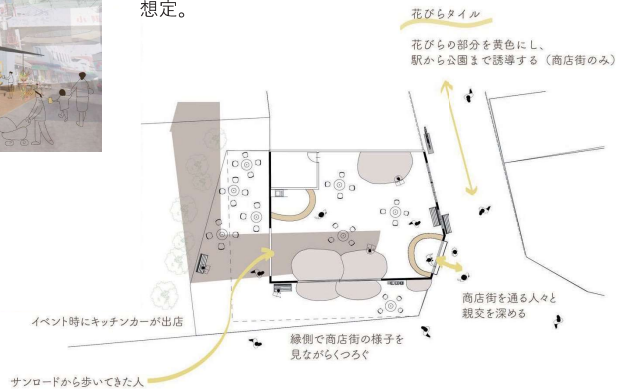
主体：商店街振興組合　連携：学芸学部心理学科＆ライフプランニング学科ライフデザインコース







商店街振興組合の人が表に立ち、日常的に挨拶をしながら、顔馴染みの関係を広げていく。駐車場の一部まで広げたテラスと植栽で、サンロードから人を呼び込み、定期的に入れ替わる間借りキッチンへと誘導する。キッチンカーが近くまで入り、イベントを行うことも想定。



●３つの公園を市民農園に



“一人ひとりがこの土地に意識を向ける”
||
市民農園としての活用



✓ 遊具はブランコのみ、古びていてほとんど使われていない



✓ 車が衝突した形跡が残る



✓ 周辺を歩く人が注目していない

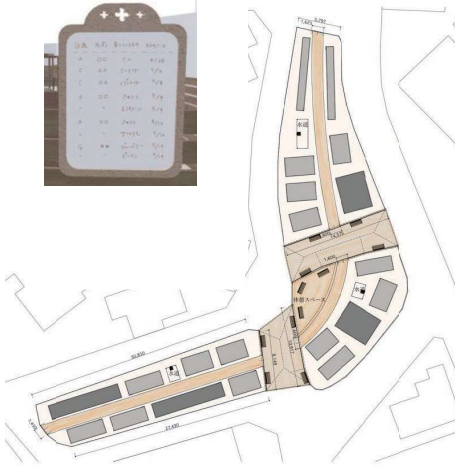
・市民農園としての活用

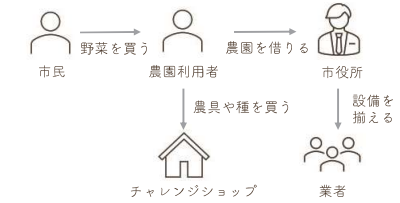
市民農園がまちの安全を守る役割を担い、周辺の人々がまちへ愛着をもつようになる。



・掲示板を用いた交流支援

掲示板を用いて植えた野菜の種類などを共有することで、栽培のコツなどを教え合い、交流が広がるきっかけに。





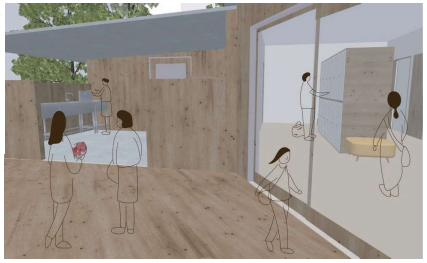


・利用者のための環境整備

農園からすぐ近くの空き地を活用し、一時的に荷物を預けたり作業着に着替えたりできる場所を設けた。農園を利用する人の負担をできるだけ低減させ、お子さんからお年寄り、未経験者から農業上級者まで、多くの人に利用してもらえる環境をつくる。

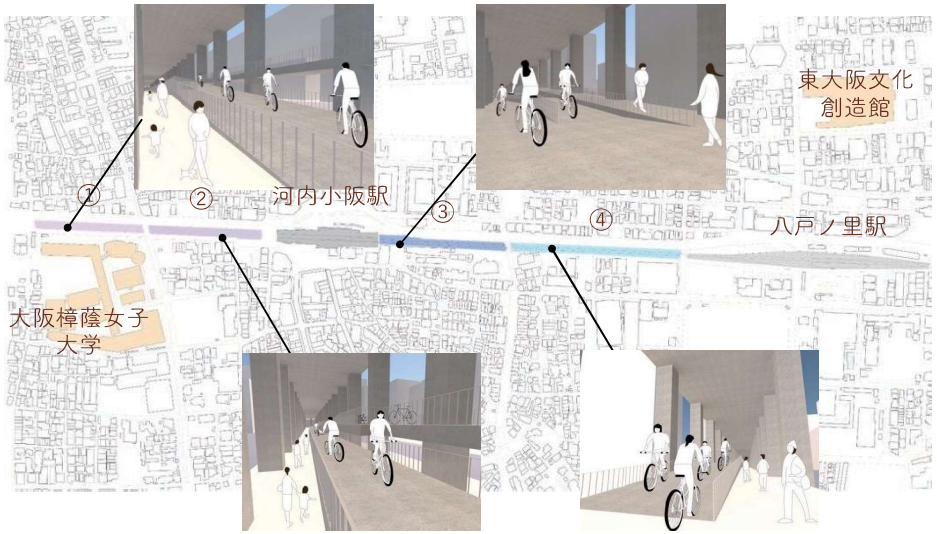




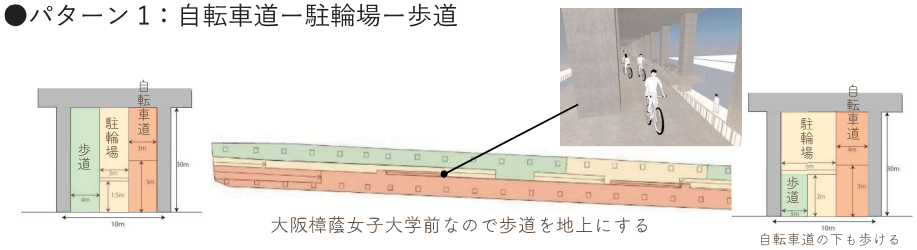


［提案３］高架下

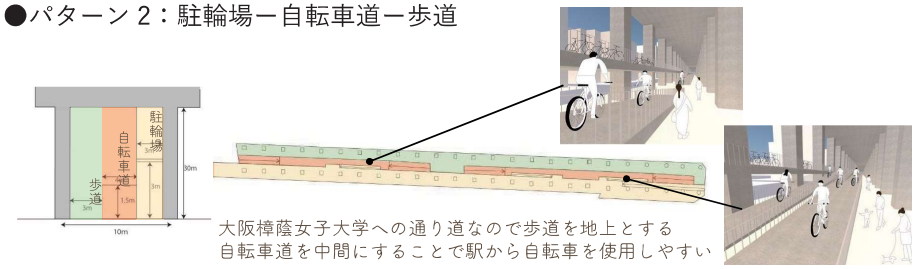
高架下空間を東大阪文化創造館と大阪樟蔭女子大学へのアクセスストリートとして整備する。



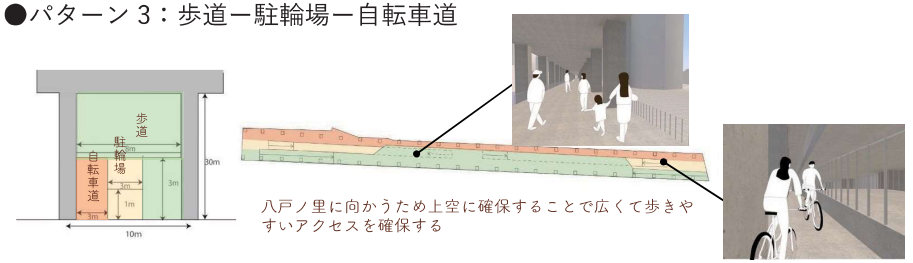
●パターン１：自転車道ー駐輪場ー歩道



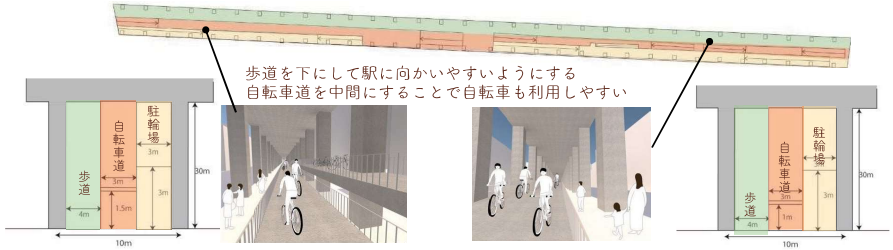
●パターン２：駐輪場ー自転車道ー歩道



●パターン３：歩道ー駐輪場ー自転車道



●パターン４：駐輪場ー自転車道ー歩道



3-3　瓜生堂

南北に大阪中央環状線と阪神高速道路が走り、東西に近鉄奈良線が走る交差点に、大阪モノレールが延伸して新駅が建設されることで、大きく変貌することが予想される瓜生堂エリアが対象である。ヒューマンスケールを遥かに超える都市構造のなかで、どのように人々の居場所を設けられるかを検討した。具体的には、モノレールと近鉄の乗り換え動線や居場所を組み込みながら、広大に広がる高架下空間をスポーツや高齢者の運動に適した空間と捉えて、近接する施設との連携を考えながら南北に 3 つのゾーンを設けて提案をおこなった。ノースエリアは大規模医療施設が隣接することから、患者や高齢者の運動機能向上を主たる目的とした「エクササイズゾーン」、交差点周辺のセンターゾーンは交通の乗り換え結節点となることから、高架下の高さを立体的に活かした居場所づくりと各種スポーツのコートを設けた「フード＆フィットネスゾーン」、サウスエリアは既存の樹木を活かしつつ、地域の子どもたちが存分に身体を動かせる「アスレチックゾーン」として計画した。

担当：髙岡 伸一

［リサーチ］瓜生堂の現況

［提案］各エリアの特色を活かしたスポーツゾーン

［リサーチ］瓜生堂の現況

●モノレールの延伸計画と新駅の設置

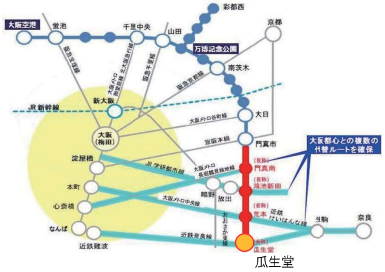
・モノレール延伸計画

- ネットワーク機能の強化

混雑緩和、移動時間の短縮、代替ルートの確保

- 街づくりの促進

にぎわいづくりへの貢献や兼業事業の拡大



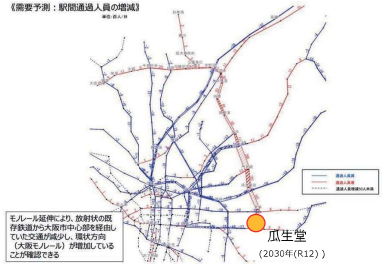
・瓜生堂駅

- 近鉄奈良線との接続駅

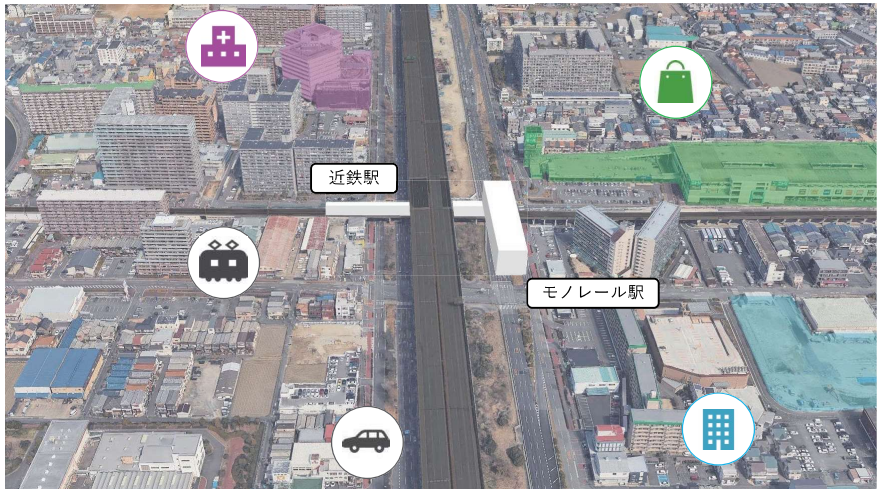
近鉄奈良線と乗り換えが可能になり、利便性が上がる

- モノレール車両基地

大阪モノレールの終点となるにあたり、車庫が設置され、モノレールの留置や検査が行われる



●周辺の建物



●スポーツ

全国高等学校ラグビーフットボール大会が昭和 38 年から花園ラグビー場で開催されており、花園ラグビー場はラグビーを楽しむすべての人の憧れの聖地として広く知られている。東大阪市は平成 3 年に「ラグビーのまち東大阪」を表明し、ラグビーのもつ団結力や力強さといったイメージを活かしたまちづくりを進めている。



モノレール沿線のスポーツ軸 / 運動広場

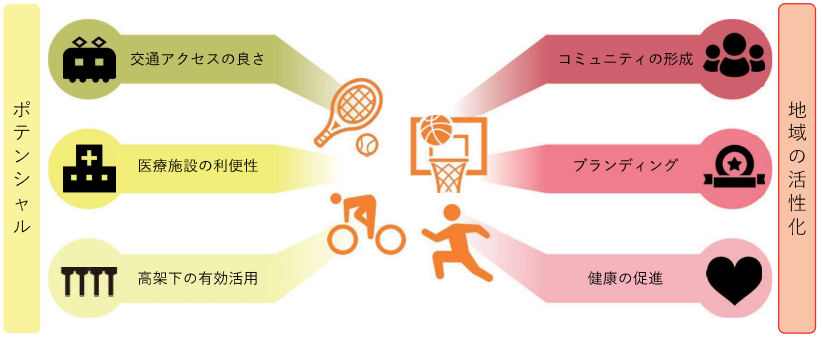


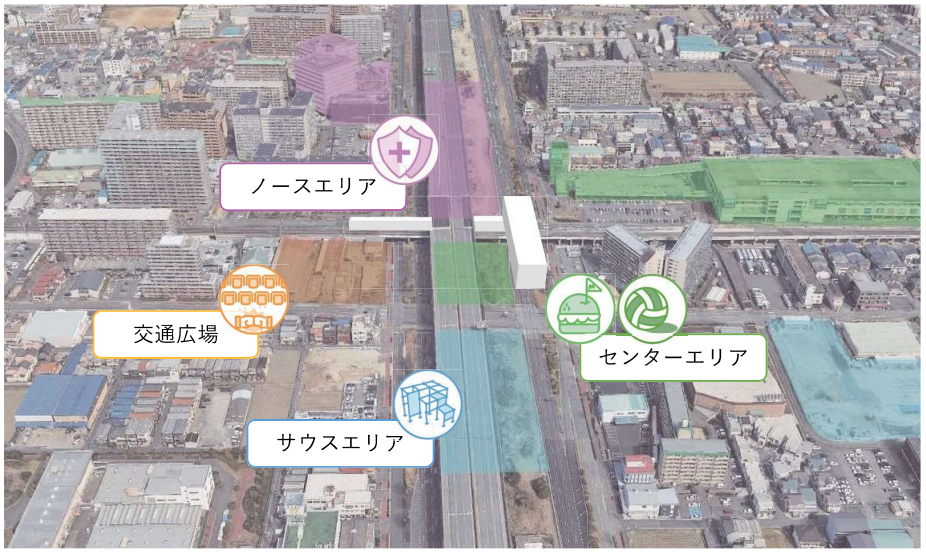
第 99 回全国高等学校ラグビーフットボール大会の決勝戦



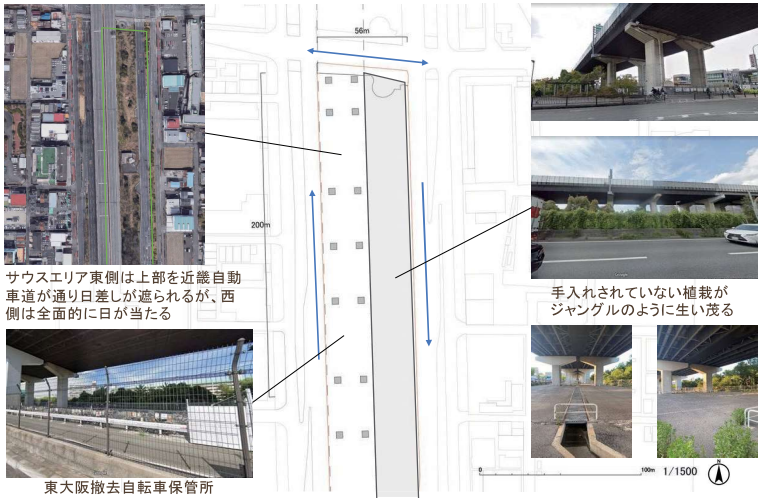
モノレール沿線の大学

●地域の活性化

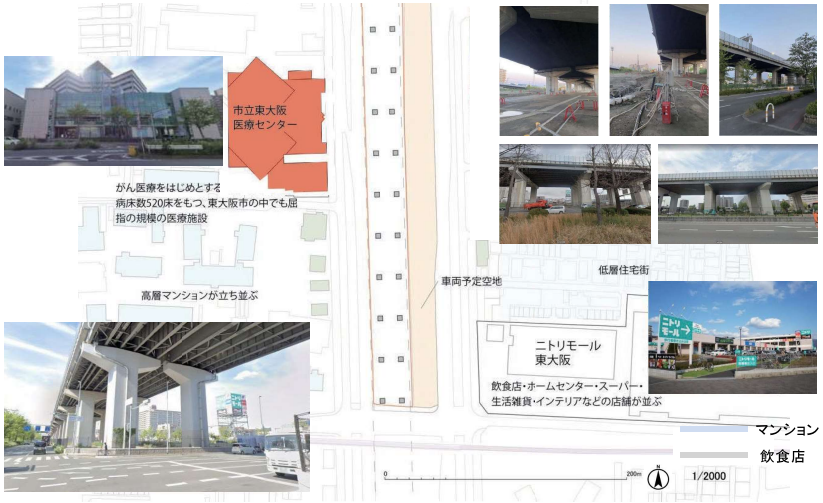




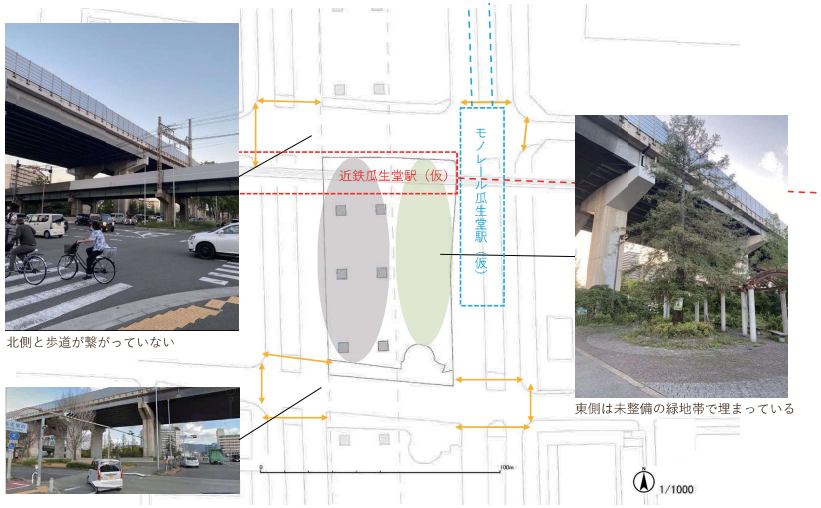
●サウスエリア



●ノースエリア



●センターエリア



各エリアについての考察

●市の中心拠点

・長田

流通業務地区である長田地区は、流通業務に特化した用途規制がかかっているため、周辺の街のような一般生活者向けの小売店、サービス施設が立地していない。もしそれらの商業活動に街を開いていくとするならば、まずは現行の用途規制の範囲内でイベント的に新しい活動を展開するなどして、街や周辺の反応や感触を確かめながらまちづくりを進める必要がある。新たに一般消費者が頻繁に往来する街に生まれ変わっていく場合、道路空間と倉庫空間を横断する物流関連の動線と歩行者の動線にコンフリクトが生じる可能性もあるため、まさに社会実験という手法の活用が鍵を握る。長田地区には、近代都市計画の産物でもある広幅員道路や街区公園、それらに面した巨大な物流倉庫や大きなキャノピーの軒下空間がある。卸売組合がすでに取り組んでいる問屋市という一般消費者を街に招き入れるイベントを社会実験の軸として位置づけて、紙文具やメルカートが扱う商材やサービスを使いつつ、活用が充分でない倉庫内外の遊休空間資源の特徴と魅力を活用したまちづくりを展開していけば、新しい長田地区、ひいては卸売団地の未来が見えてくるのではないか。（堀口）

・荒本

東大阪市のなかでも、複雑なエリア、交通、人々が入り交じる「都市のコア」であり、大規模な都市計画によって変更をくわえるよりも、それぞれの境界や閾のあいまい化がまずは求められていると考えている。公共施設や地域で目立つ存在であるいくつかの主体、地域住民、働く人々、通り過ぎるだけの幹線道路の利用者の意見を吸い上げつつ、場所や意識を分断しない拠点とそのネットワークづくりを目指すことが課題であると考えている。（松岡）

●にぎわいゾーン

・布施

布施駅周辺エリアは商店街の賑わいが減少していたり、駅前ロータリーに活気がないなどの現状がある一方で、公共スペースが広いこと、駅の乗降客が多いこと、自転車を含めた通行者も多いことなど、活かしきれていないポテンシャルが大きい。

今回の提案はこのポテンシャルを活かすことを狙っている。対象とする場所が道路空間であるため、今回の計画を実行するには役所、警察、住民、商店街とさまざまな関係者の協力が必要となる。また、まちのこれからをになっていくプレイヤーの登場も必要となる。一足飛びの実現は困難なことから、小さな社会実験の実施からスタートし、徐々に関係者の理解と協力を集めていく方法が望ましい。既存のまちのイベントで、アンケート調査やイベント協力を行い、関係者との関係作りやまちの新しいプレイヤーの発掘をするところからスタートしたい。（宮部）

・河内小阪

河内小阪駅の北側と南側を、まずは分けて検討とアクションを進めていくことが有効と思われる。北側は近鉄による大規模再開発が現在進行中であるため、その計画に大阪商業大学や地域の人たち、また東大阪市が参画できるまちづくりのプラットフォームを設けることが急務となる。南側については、まずは商店街組合へのヒアリングを行い、現実的な課題を抽出するところから始めることになると思われるが、南北共に大学の主体的な参画が不可欠となるため、まずは各大学のキーパーソンを見出すことが重要である。（髙岡）

・瓜生堂

新駅の開設によって今後、街の様相が大きく変化することが予想されるエリアであり、長期的な視点に立ったまちづくりが重要となる。現状は鉄道と道路によって 4 つのエリアが大きく分断されており、地域の人びとのアクティビティをどうつないでいくかを考える必要がある。各インフラの規模が大きく短期で成果をあげていくのは困難であるが、今後増加が見込まれる地域住民を対象に、高架下空間を活用した社会実験を実施して反応を探るといったことが考えられるだろう。（髙岡）

「市の中心拠点」と「にぎわいゾーン」における
今後求められる都市機能や都市空間の在り方研究

2024 年 3 月 31 日

近畿大学建築学部
松岡 聡　宮部 浩幸　髙岡 伸一　堀口 徹

報告書編集　西尾圭悟

●参加学生

松岡ゼミ（リサーチ：1-1 立地適正化計画　提案：2-2 荒本）
上野 祐花　西山 歩喜　西田 真菜　中村 圭吾　加藤 凌弥　松井 みのり　中岡 和貴
高橋 尚希　大久保 匡基　土井 康弘　李 楊可馨　呉 岳

宮部ゼミ（リサーチ：1-2 プレイスメイキング事例　提案：3-1 布施）
関谷 百花　檜原 佑太　田村 陸人　森田 美咲　佐藤 友紀　谷山 雄亮　市川 令依奈
飯野 大輝　土肥 旺楽　加治木 亜利紗　矢谷 太一　岩田 翔希　伊藤 大登　布施 あずみ

髙岡ゼミ（リサーチ：1-3 社会実験事例　提案：3-2 河内小阪、3-3 瓜生堂）
粂田 理子　大深 慎之佑　中谷 光里　中森 陽子　三好 雄大　TIAN SIQI　石橋 葉月　田邉 綺
中居 愛　西本 凜音　原 みづ紀　平井 希　村上 雄亮　和田 隼祐　ZHOU JIACHENG

堀口ゼミ（リサーチ：1-4 卸売団地事例　提案：2-1 長田）
淵本 愛理　石上 拡大　泉 晴大　岩本 和馬　奥 真奈美　金森 啓吾　島 輝　杉山 夏花
中尾 知佳　平田 俊輝　芳谷 妃菜　吉田 生良理

●活動記録

2023 年
4 月 10 日　　キックオフミーティング、課題説明（共通）
ーリサーチ期間ー
5 月 1 日　　発表（共通）
5 月 15 日　　ミーティング（共通）
ー提案作業期間ー
6 月 5 日　　中間発表（共通）
6 月 26 日　　泉北高速鉄道 東大阪トラックターミナル ヒアリング（松岡ゼミ）
7 月 24 日　　最終発表（共通）
8 月 1 日　　布施の商店会長へプレゼンテーション＠布施（宮部ゼミ）
10 月 25 日　　メルカート専務理事へヒアリング＠長田（堀口ゼミ）
11 月 10 日　　メルカート理事長、機械卸団地理事長へヒアリング＠長田（堀口ゼミ・松岡ゼミ）